

栄養士・管理栄養士指定科目

*教育内容ごとの具体的な教育目標

平成 13 年 9 月 21 日 健発第 935 号
「栄養士法施行令の一部を改正する政令等の施行について」
の「指定基準」（参考 1）（参考 2）による

【栄養士】

教育内容	本学授業科目	教育目標
社会生活と健康	公衆衛生学 社会福祉論	〔目標〕 社会や環境と健康との関係を理解するとともに、保健・医療・福祉・介護システムの概要について修得する。 公衆衛生学、社会福祉概論を含むものとする。
人体の構造と機能	解剖学 生化学 生理学 臨床医学概論 解剖生理学実習 生化学実験	〔目標〕 人体の仕組みについて構造や機能を理解し、食事、運動、休養などの基本的な生活活動や環境変化に対する人体の適応について修得する。 解剖学、生理学、生化学を含むものとする。
食品と衛生	基礎食品学 応用食品学 食品衛生学 食品学実験Ⅰ 食品衛生学実験	〔目標〕 食品の各種成分の栄養特性について理解するとともに、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について修得する。 食品学（食品加工学を含む）、食品衛生学を含むものとする。
栄養と健康	基礎栄養学 応用栄養学 臨床栄養学 健康食育論 栄養学実習Ⅰ 栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習	〔目標〕 栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解するとともに、性、年齢、生活・健康状態等における栄養生理的特徴及び各種疾患における基本的な食事療法について修得する。 栄養学、臨床栄養学概論を含むものとする。
栄養の指導	栄養教育・指導論 栄養カウンセリング論 公衆栄養学 栄養情報処理演習 栄養教育・指導論実習	〔目標〕 個人、集団及び地域レベルでの栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について理解する。また基本的な栄養指導の方法について修得する。 栄養指導論、公衆栄養学概論を含むものとする。
給食の運営	給食計画実務論 調理学 給食運営管理実習Ⅰ 給食運営管理実習Ⅱ 校外実習 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ クリエイティブクッキング	〔目標〕 給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する。 調理学、給食計画論、給食実務論を含むものとする。また、校外実習1単位以上を含むものとする。

【管理栄養士】

教育内容		教育目標
専門基礎分野	社会・環境と健康	<p>〔目標〕</p> <p>人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康をどう規定し左右するか、あるいは人間の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康の関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間や生活を生態系に位置づけて理解する。 ○人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解する。 ○社会や環境と健康との関係を理解するとともに、社会や環境の変化が健康に与える影響を理解する。 ○健康の概念、健康増進や疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。 ○健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。 ○保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解する。
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	<p>〔目標〕</p> <p>1) 人体の構造や機能を系統的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を理解する。 ○個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構を理解する。 <p>2) 主要疾患の成因、病態、診断、治療を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣病、栄養疾患、消化器疾患、代謝疾患、感染症、免疫・アレルギー疾患、腎疾患等の概要を理解する。 ○疾病の発症や進行を理解する。 ○病態評価や診断、治療の基本的考え方を理解する。 ○人体と微生物や毒性物質との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構を理解する。
	食べ物と健康	<p>〔目標〕</p> <p>食品の各種成分を理解する。また、食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史的変遷と食物連鎖の両面から理解する。 ○食品の栄養特性、物性等について理解する。 ○新規食品・食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。 ○栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の加工や調理の方法を理解して修得する。 ○食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法を理解する。
専門分野	基礎栄養学	<p>〔目標〕</p> <p>栄養とは何か、その意義について理解する。</p> <p>健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。</p>

教育内容		教育目標
専門分野	応用栄養学	〔目標〕 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的考え方を修得する。また、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について理解する。
	栄養教育論	〔目標〕 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。特に行動科学やカウンセリングなどの理論と応用については演習・実習を活用して学ぶ。 さらに、身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について修得する。
	臨床栄養学	〔目標〕 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。特に各種計測による評価・判定方法やベッドサイドの栄養指導などについては実習を活用して学ぶ。また医療・介護制度やチーム医療における役割について理解する。 さらにライフステージ別、各種疾患別に身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得する。
	公衆栄養学	〔目標〕 地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。 さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。
	給食経営管理論	〔目的〕 給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。
	総合演習	〔目的〕 専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
	臨地実習	〔目的〕 実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。

学校図書館司書教諭資格科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成10年3月18日 文部科学省通知
「学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について」
の「指定基準」による

科目・単位数	ね ら い	内 容
学校経営と学校図書館 (2単位)	学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館の理念と教育的意義 2. 学校図書館の発展と課題 3. 教育行政と学校図書館 4. 学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等） 5. 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 6. 学校図書館メディアの選択と管理、提供 7. 学校図書館活動 8. 図書館の相互協力とネットワーク
学校図書館メディアの構成 (2単位)	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館メディアの種類と特性 2. 学校図書館メディアの選択と構成 3. 学校図書館メディアの組織化 <ul style="list-style-type: none"> ・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説 ・件名標目表の解説 ・目録の意義と機能、日本目録規則の解説 ・目録の機械化 4. 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 5. 特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディア
学習指導と学校図書館 (2単位)	学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程と学校図書館 2. 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 3. 児童生徒の主体的学習と情報活用能力の育成 4. 学習過程における情報活用能力の実際 5. 学習指導における学校図書館の活用 6. 学校図書館における情報サービス（レファレンスサービス等） 7. 教職員への支援と働きかけ

科目・単位数	ね ら い	内 容
読書と豊かな人間性 (2単位)	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読書の意義と目的 2. 子どもの読書環境 3. 発達段階に応じた読書の指導と計画 4. 多様な読書資料の種類・特性と活用（漫画等の利用方法を含む） 5. 子どもと本を結ぶための方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等） 6. 読書活動の推進 7. 家庭、地域、公共図書館等との連携
情報メディアの活用 (2単位)	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む） 2. 情報メディアの特性と選択 3. 情報メディアの教育利用 <ol style="list-style-type: none"> ①コンピュータの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・教育用ソフトウェアの活用 ・データベースと情報検索 ・インターネットによる情報検索と発信 ②視聴覚メディア、その他情報機器の活用 4. 情報メディアの活用事例 5. 情報メディアと児童・生徒の保護・支援（情報モラルや著作権を含む）

看護学科科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成29年度10月

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（文部科学省）

看護学教育モデル・コア・カリキュラム

～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学習目標～

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献することを使命とし、人々の尊厳を擁護する看護を実践し、その基盤となる看護学の発展や必要な役割の創造に寄与することを学ぶ。					
A-1 プロ フェ ッ シ ョ ナ リ ズ ム	A-1-1 看護職としての使命、役割と責務	人々の健康で幸福な生活の実現に貢献するという看護職としての使命、役割の発揮・創造に向けて、基盤となる知識を修得し、自分の責任と能力を認識した上で、その範囲内で責務を果たすことを学ぶ。	① 人々の健康で幸福な生活とは、人々のもつ価値観や社会的背景を踏まえて多様であることを理解し、尊重できる。	A-1-1①	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護論、総合実習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 看護職に求められる様々な役割を説明できる。	A-1-1②	看護学概論、精神看護論、医療看護実習Ⅱ（精神） 総合実習、在宅看護論、小児看護論、小児療養看護論、老年看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 看護職の法的義務を説明できる。	A-1-1③	看護学概論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、 小児療養看護論、老年看護論、治療看護論
			④ 自分の責任と能力の範囲を知り、可能な役割と責務を果たすことができる。	A-1-1④	看護学概論、看護倫理、在宅看護論、老年看護論、総合実習 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	A-1-2 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護	看護の基盤となる人々の基本的人権を理解し擁護する必要性を学ぶ。	① 人々の基本的人権について説明できる。	A-1-2①	看護学概論、看護倫理、医療と法、公衆衛生看護学概論、 在宅看護論、老年看護論、小児看護論
			② 看護において人々の基本的人権が擁護される状況が理解できる。	A-1-2②	看護倫理、精神看護論、医療看護実習Ⅱ（精神） 総合実習、医療と法、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、 老年看護論、小児看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、慢性期看護論
			③ 看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が理解できる（インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性、守秘義務、個人情報保護の方法等）。	A-1-2③	看護学概論、看護倫理、医療看護実習Ⅱ（精神） 総合実習、医療と法、在宅看護論、小児看護論、 小児療養看護論、老年看護論、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、 急性期看護論、慢性期看護論
			④ ケアは相互作用であることを踏まえ、ケア提供者の人権も守る必要があることと状況が理解できる。	A-1-2④	看護学概論、看護倫理、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習 公衆衛生看護学概論、在宅看護論、老年看護論 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 自分の責任と能力の範囲内で実践する看護の根拠として、基本的人権が説明できる。	A-1-2⑤	看護学概論、看護倫理、精神看護論、 精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習 公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児看護論、老年看護論 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	A-1-3 看護倫理	看護実践における倫理の重要性、倫理に関する理論や倫理原則、思考方法を学ぶ。	① 生命、人の尊厳を尊重することができる。	A-1-3①	看護学概論、看護倫理、生命倫理、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、小児看護論、 老年看護論、女性の健康増進と看護、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を理解できる。	A-1-3②	看護倫理、精神看護論、在宅看護論、小児看護論、 老年看護論、女性の健康増進と看護
			③ 倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる。	A-1-3③	看護倫理、精神看護論、在宅看護論

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
A-2 看護学の知識と看護実践	多様な人々の看護に必要かつ十分な知識を身に付け、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、アセスメント結果に基づく根拠ある看護を実践することを学ぶ。				
	A-2-1 学修の在り方	看護だけでなく、様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、根拠ある看護実践に結び付けることを学ぶ。	① 看護実践の根拠として、様々な情報を客観的・批判的に整理する必要性を理解できる。	A-2-1①	課題探究、実践看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、基礎Ⅰ、在宅看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児）、老年看護論、栄養代謝学、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、慢性期看護論、治療看護論、母性看護論
			② 看護実践から看護学の知識を考察し表現できる。	A-2-1②	課題探究、実践看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、老年看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 適切な助言等を通して主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。	A-2-1③	課題探究、看護学概論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）老年看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 各自の興味・関心に応じて必要な科目、プログラムを選択し、参加できる。	A-2-1④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、基礎Ⅰ、在宅看護論、総合実習
	A-2-2 看護実践能力	統合された知識、技術、態度に基づき、根拠に基づいた全人的な看護実践を学ぶ。	① 看護実践を行う上で、知識、技術、態度を統合する必要性を理解できる。	A-2-2①	課題探究、実践看護論、精神看護支援技術演習、在宅看護論、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、課題探求治療養支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 自分の責任と能力の範囲を自覚し、正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。	A-2-2②	実践看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、課題探求、治療養支援技術演習
			③ チームの一員として必要な看護に参画できる。	A-2-2③	看護学概論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、課題探求
④ 看護実践能力を自己評価し、必要な学修ができる。			A-2-2④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、課題探求	

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
A-3 根拠に基づいた課題対応能力	未知の課題に対して、自ら幅広く多様な情報を収集し、創造性の発揮と倫理的・道徳的な判断及び科学的根拠の選択によって課題解決に向けた対応につなげる基盤を身に付ける。				
	A-3-1 課題対応能力	自らの力で課題を発見し、解決に向けた対応を学ぶ。	① 必要な課題を自ら発見できる。	A-3-1①	課題探究、学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、 課題探求、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、 医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 重要性・必要性に応じて自分に必要な課題の優先順位を決定できる。	A-3-1②	課題探究、学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、 総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 課題の解決に向けた対応方法を自らの力だけでなく他者と協力して見出すことができる。	A-3-1③	課題探究、学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、 総合実習、在宅看護論、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、 医療看護実習Ⅱ（慢性期）
A-4 コミュニケーション能力	人々の相互の関係を成立・発展させるために、人間性が豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感し、多様な人々の生活・文化を尊重するための知識、技術、態度で支援に当たることを学ぶ。				
	A-4-1 コミュニケーションと支援における相互の関係性	看護において、コミュニケーションが人々との相互の关系到影響することを理解し、より良い支援に向けたコミュニケーションを学ぶ。	① 看護において、コミュニケーションが人々との相互の关系到影響することを理解できる。	A-4-1①	予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護論、精神看護支援技術演習、 医療看護実習Ⅱ（精神）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）総合実習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、小児看護論、 老年看護論、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、 成育看護実習Ⅱ（母性）
			② 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について説明できる。	A-4-1②	予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 医療看護実習Ⅰ、精神看護論、精神看護支援技術演習、 医療看護実習Ⅱ（精神）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）総合実習、 コミュニケーション論、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、 小児看護論、老年看護論、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、 成育看護実習Ⅱ（母性）
			③ 自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	A-4-1③	学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 医療看護実習Ⅰ、精神看護支援技術演習、 医療看護実習Ⅱ（精神）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）総合実習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、 成育看護実習Ⅱ（小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、 医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅱ（母性）

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
A-5 保健・医療・福祉における協働	対象者や、保健・医療・福祉や生活に関わる全ての人々と協働し、必要に応じてチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとして役割を担うための基盤を学ぶ。				
	A-5-1 保健・医療・福祉における協働	様々な人々と協働し、チームの一員として看護職に求められる役割を果たすための基盤を学ぶ。	① 保健・医療・福祉における協働の目的と意義、看護職に求められる役割を説明できる。	A-5-1①	看護学概論、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児看護論、母性看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、課題探究、コミュニティ看護実習Ⅰ
			② 保健・医療・福祉における協働の実際を具体的に説明できる。	A-5-1②	看護学概論、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、課題探究、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 様々な人々との協働を通して、健康上の諸課題への対応に参画できる。	A-5-1③	総合実習、公衆衛生看護学概論 地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論
A-6 ケアの質と安全管理	人々にとって良質で安全なケアの提供に向けて、継続的にケアの質と安全を管理するための基盤を学ぶ。				
	A-6-1 ケアの質の保証	良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証するための基盤を学ぶ。	① 良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を理解できる。	A-6-1①	精神看護論、総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、老年看護論、医療ケアシステム、治療療養支援技術演習
			② ケアの質を管理し保証していくための具体的な方法を説明できる。	A-6-1②	総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、治療療養支援技術演習
			③ ケアの質を管理し保証していくための活動に参画できる。	A-6-1③	総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論
	A-6-2 安全性の管理	日常的に起こる可能性がある医療上の事故・インシデント（誤薬、転倒・転落、院内感染、針刺し事故）等やリスクを認識し、人々にとってより安全な看護を学ぶ。	① 看護における安全性の確保のため、能力向上の必要性を説明できる。	A-6-2①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、総合実習、小児療養看護論、母性看護論、老年看護論、治療看護論 治療療養支援技術演習, 医療看護実習Ⅱ（急性期）
			② 看護における安全性の確保のための対応策を実施できる。	A-6-2②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児） 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療療養支援技術演習
③ 看護における安全性を向上させるための活動に参画できる。			A-6-2③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			④ 自身の体調管理を行うとともに、知識及び技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を仰ぐことの重要性を理解できる。	A-6-2④	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、 成育看護実習Ⅱ（小児）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名	
中項目	小項目					
多様でしかも急速に変化しつつある社会状況を認識し、地域社会、国際社会から求められる役割を果たすことにより専門職の責任を果たすとともに、必要な役割を見だし拡大する基礎を学ぶ。						
A-7 社会から求められる看護の役割の拡大	A-7-1 看護職の活動の歴史・法的基盤	社会から求められる看護職の役割、責任を検討する基盤として看護の歴史を学ぶ。	① 医療・看護の歴史、法的基盤を理解できる。	A-7-1①	看護学概論、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、医療ケアシステム論、母性看護論	
			② 看護職の役割や活動の変遷、それに影響する事柄を理解できる。	A-7-1②	看護学概論、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児療養看護論、年看護論、コミュニティケアシステム論、医療ケアシステム論	
	A-7-2 保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割	保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割について学ぶ。	① 看護職が活躍する多様な場とそこでの役割を理解できる。	A-7-2①	看護学概論、精神看護論、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児療養看護論、医療ケアシステム論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ	
			② 地域社会の変化、保健・医療・福祉の動向を踏まえ、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。	A-7-2②	看護学概論、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、医療ケアシステム論	
	A-7-3 国際社会・多様な文化における看護職の役割	国際社会・多様な文化における看護職の役割について学ぶ。	① 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。	A-7-3①	看護学概論、精神看護論、国際保健、地域看護活動論、老年看護論、母性看護論	
			② 多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解できる。	A-7-3②	国際保健、地域看護活動論	
			③ 国際社会における健康課題と戦略を理解し、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。	A-7-3③	看護学概論、国際保健、地域看護活動論	
	人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する基盤としての看護学研究の必要性を理解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学の知識体系の構築に関心を向ける。					
	A-8 科学的探究	A-8-1 看護学における研究の必要性・意義	看護学における研究の必要性・意義を学ぶ。	① 実践の課題に基づき研究が開始され、研究成果が実践に還元され、実践の根拠となることを理解できる。	A-8-1①	課題探究、看護情報学
② 研究成果を根拠とする看護実践への活用例を理解できる。				A-8-1②	課題探究、看護情報学、急性期看護論	
③ 看護実践の向上、看護学における研究の必要性・意義が説明できる。				A-8-1③	課題探究、看護情報学、慢性期看護論	

A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力

学士課程における看護系人材としての資質・能力を獲得するための学修内容とその到達レベルを定める。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
A-9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢	専門職として、看護の質の向上を目指して、連携・協働する全ての人々とともに省察し、自律的に生涯を通して最新の知識・技術を学び続ける基盤を身に付ける。				
	A-9-1	看護専門職の自己研鑽の必要性と方法を学ぶ。	① 生涯にわたる自己研鑽の必要性を理解できる。	A-9-1①	看護学概論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、課題探究、基礎Ⅲ、総合実習、老年看護論、学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	自己研鑽の必要性と方法		② 日々の看護実践の省察の重要性を理解できる。	A-9-1②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、医療看護自習Ⅱ（精神）、総合実習、基礎Ⅲ、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 自己教育力を高める方法について理解し、個々が実施可能な方法を検討し、実践できる。	A-9-1③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、課題探究、基礎Ⅲ、総合実習、治療看護論、治療養支援技術演習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
	A-9-2	看護学の専門性の発展に資するキャリア開発の重要性を理解し、個々のキャリアパス・キャリア開発方法を学ぶ。	① キャリアパス・キャリア開発の概念について理解できる。	A-9-2①	看護学概論、基礎Ⅲ、総合実習、医療ケアシステム論
看護学の専門性の発展	② 多様な生涯学習機会の獲得方法（実践の振り返り、自己学習、職場における継続教育、学会や専門職団体による各種研修、大学院、共同研究等）を把握し、将来的なキャリアパス・キャリア開発への活用を説明できる。		A-9-2②	看護学概論、基礎Ⅲ、総合実習	

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
B-1 の暮らしを支える地域や文化		人々の暮らしに影響する地域特性に関連する文化的・社会的背景を理解するために必要な基礎的知識や考え方について学ぶ。	① 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。	B-1①	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論
			② 地域の保健・医療・福祉制度、健康に関する情報、指標について説明できる。	B-1②	社会福祉、社会活動論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論
B-2 社会システムと健康	B-2-1 健康の概念	健康の定義や健康に関連する概念について学ぶ。	① 健康の定義について説明できる。	B-2-1①	生活概論、看護学概論、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、老年看護論、慢性期看護論、公衆衛生学
			② 健康に関連する主要な概念について説明できる。	B-2-1②	看護学概論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、老年看護論、慢性期看護論、公衆衛生学
			③ 健康行動を理解するための基礎となる理論について説明できる。	B-2-1③	予防看護論、公衆衛生看護学概論、老年看護論、総合実習慢性期看護論、公衆衛生学
			④ 健康の社会的決定要因について説明できる。	B-2-1④	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、老年看護論、総合実習栄養代謝学、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、疫学、公衆衛生学
			⑤ 多様な健康状態にある人に応じた健康の捉え方の重要性について理解できる。	B-2-1⑤	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、公衆衛生学、慢性期看護論
			⑥ 予防の概念について説明できる。	B-2-1⑥	予防看護論、精神看護論、公衆衛生看護学概論、総合実習、疫学、公衆衛生学
			⑦ 疾病や障害の遺伝的要因と環境的要因について説明できる。	B-2-1⑦	疾病と治療Ⅳ、公衆衛生看護学概論、総合実習、慢性期看護論、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、疫学、医療看護実習Ⅱ（急性期）
	B-2-2 環境と健康	人々の暮らしを取り巻く環境について、現状や課題と健康への関連について学ぶ。	① 環境（社会・文化的環境、物理・化学・生物的環境、政治・経済的環境）について説明できる。	B-2-2①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、精神看護支援技術演習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、慢性期看護論、疫学、公衆衛生学
		② 環境の現状や課題、環境と健康・生活との関連について説明できる。	B-2-2②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、こころの健康増進と看護、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、女性の健康増進と看護、疫学、公衆衛生学、母性看護論	
		③ 薬物や放射線が健康・生活に与える影響について説明できる。	B-2-2③	疾病と治療Ⅳ、精神看護支援技術演習、公衆衛生看護学概論、治療看護論、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、母性看護論	

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			④ 健康を支援するために環境に働きかけていく必要性について説明できる。	B-2-2④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、女性の健康増進と看護
			⑤ 災害が健康・生活に与える影響について説明できる。	B-2-2⑤	災害看護、地域看護活動論、在宅看護論、母性看護論 コミュニティケアシステム論
			⑥ 遺伝的・性的多様性を踏まえた上で、環境と健康・生活との関連について理解できる。	B-2-2⑥	総合実習、女性の健康増進と看護

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
B-2-3	生活・ライフスタイルと健康との関連	多様な生活・ライフスタイルをもつ人を理解し、その人にとって健康な生活の在り方を考えるための基礎となる生活と健康との関連について学ぶ。また、人がより良い健康行動をとることができるよう支援するために必要な行動科学・社会科学に関連する知識について学ぶ。	① ライフスタイルの背景にある文化を理解し、多様なライフスタイルを理解できる。	B-2-3①	生活概論、予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、女性の健康増進と看護、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠と健康との関連について説明できる。	B-2-3②	生活概論、予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、食品学総論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、小児看護論、小児療養看護論、老年看護論、栄養代謝学、急性期看護論、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、女性の健康増進と看護、母性看護論
			③ ストレスの原因と健康との関連について説明できる。	B-2-3③	生活概論、予防看護論、こころの健康増進と看護、地域看護活動論、総合実習、栄養代謝学、急性期看護論、慢性期看護論、医療看護実習（急性期）、医療看護実習（慢性期）
			④ 嗜癖（喫煙、飲酒、ギャンブル等）と健康との関連について説明できる。	B-2-3④	生活概論、予防看護論 疾病と治療Ⅳ、精神看護支援技術演習、地域看護活動論、小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、母性看護論
			⑤ 生活習慣に関連付けた健康の概念や政策（プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、国民健康づくり運動）について説明できる。	B-2-3⑤	生活概論、予防看護論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、小児看護論、総合実習、急性期看護論、慢性期看護論、母性看護論
			⑥ 個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について説明できる。	B-2-3⑥	生活概論、予防看護論、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、総合実習、女性の健康増進と看護、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 主な社会資源と人々の暮らしや健康との関連について説明できる。	B-2-3⑦	生活概論、予防看護論、社会福祉・社会保障論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、小児看護論、老年看護論、慢性期看護論、急性期看護論、コミュニティケアシステム論、女性の健康増進と看護、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑧ 人の行動変容支援に必要な基礎理論（心理学、行動科学）について理解できる。	B-2-3⑧	予防看護論、発達心理学、精神看護論、公衆衛生看護学概論、総合実習、女性の健康増進と看護

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
B-2-4	地域ケアシステム	個人・家族が暮らす地域に存在する社会資源、グループ、組織について理解し、人々の健康な生活のための地域のケアシステムやネットワークの構築の必要性について学ぶ。	① 地域の資源や様々なグループ、組織の活動について人々の暮らしと関連付けて説明できる。	B-2-4①	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、コミュニケアシシステム論、女性の健康増進と看護、医療ケアシステム論、母性看護論
			② 人々に必要な地域のケアシステムやネットワークについて、関連機関や多職種と連携・協働し構築する必要性について説明できる。	B-2-4②	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児療養看護論、コミュニケアシシステム論、医療ケアシステム論、母性看護論
B-2-5	社会の動向と保健・医療・福祉制度	看護を取り巻く社会の動向や特性について学ぶ。健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶ。	① 社会の動向や特性を説明できる。	B-2-5①	精神看護論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、老年看護論、コミュニケアシシステム論、女性の健康増進と看護、医療ケアシステム論
			② 日本における社会保障制度の変遷と特徴について説明できる。	B-2-5②	看護学概論、社会福祉・社会保障論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、在宅看護論、老年看護論、コミュニケアシシステム論、医療ケアシステム論
			③ 社会保障制度の種類（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等）について説明できる。	B-2-5③	看護学概論、社会福祉・社会保障論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、コミュニケアシシステム論、医療ケアシステム論、精神看護論、母性看護論
			④ 社会保険の種類（医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険）について説明できる。	B-2-5④	社会福祉、社会保障論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、老年看護論
			⑤ 公衆衛生及び医療の主要な関連法規（地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、医療法等）について説明できる。	B-2-5⑤	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、精神看護論、小児看護論
			⑥ 保健・医療・福祉における課題（生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病等）の動向と対策について説明できる。	B-2-5⑥	生活概論、疾病と治療Ⅳ、精神看護論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、小児看護論、小児療養看護論、老年看護論、女性の健康増進と看護、母性看護論、社会福祉保障論、こころの健康増進と看護、医療ケアシステム論、母性看護論

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名	
中項目	小項目					
	B-2-6 疫学・保健統計	根拠に基づいた看護を実践するための基礎となる疫学と保健統計について学ぶ。	① 人口統計（人口静態、人口動態）、疾病構造、保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。	B-2-6①	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、小児療養看護論、疫学、保健統計学、老年看護論、精神看護論 コミュニティケアシステム論、女性の健康増進と看護	
			② 健康障害と相対リスクについて説明できる。	B-2-6②	保健統計学	
			③ 疫学的因果関係の推定について説明できる。	B-2-6③	疫学	
			④ 情報リテラシーについて説明できる。	B-2-6④	看護情報学、疫学、保健統計学	
			⑤ 統計資料をデータベースや文献・図書から検索し活用できる。	B-2-6⑤	女性の健康増進と看護、医療ケアシステム論	
B-3 社会における看護職の役割と責任	B-3-1 看護職の法的位置付け	看護職の法的位置付けについて学ぶ。	① 看護職を規定する法律や関連法規（保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律等）について説明できる。	B-3-1①	看護学概論、公衆衛生看護学概論、老年看護論、医療ケアシステム論	
			② 看護の動向とそれに関わる制度や法規（特定行為、訪問看護、資格認定制度等）について理解できる。	B-3-1②	看護学概論、総合実習、医療ケアシステム論	
			③ 看護職と連携する主な職種（医師法、医療関係職に関する法律、各福祉士に関する法律）の特徴について説明できる。	B-3-1③	看護学概論、総合実習、医療ケアシステム論	
	B-3-2 看護における倫理	B-3-2)-(1) 倫理規範と実践 保健・医療・福祉における、倫理に関する知識と生命・人の尊厳について理解する。	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の倫理の変遷を理解できる。	B-3-2)-(1)①	看護倫理、生命倫理、老年看護論	
			② 医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針（倫理の原則、倫理指針、看護者の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領、リスボン宣言、世界人権宣言等）について説明できる。	B-3-2)-(1)②	看護学概論、看護倫理、生命倫理、小児看護論、小児療養看護論、疫学、総合実習、女性の健康増進と看護、母性看護論	
			③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。	B-3-2)-(1)③	看護倫理、生命倫理、小児療養看護論、疫学、総合実習、女性の健康増進と看護、精神看護論、小児看護論、母性看護論	
			④ 医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる。	B-3-2)-(1)④	看護倫理、在宅看護論、小児療養看護論、総合実習、母性看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、精神看護論、老年看護論、家族看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）	
			B-3-2)-(2) 保健・医療・福祉における個人情報 保健・医療・福祉における個人情報について、倫理的配慮の下に取扱いができる。	① 保健・医療・福祉における個人情報の取扱いとセキュリティについて説明できる。	B-3-2)-(2)①	看護情報学、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、老年看護論 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
				② 個人情報保護や守秘義務に関する法規について説明できる。	B-3-2)-(2)②	看護情報学、公衆衛生看護学概論、老年看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習（急性期）、医療看護実習（慢性期）

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			③ 個人情報保護や守秘義務を遵守することができる。	B-3-2)-(2)③	看護情報学、看護学概論、看護倫理、 医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、コミュニ ティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看 護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 多職種間での情報共有時の配慮ができる。	B-3-2)-(2)④	看護情報学、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			⑤ 情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。	B-3-2)-(2)⑤	看護情報学、公衆衛生看護学概論、総合実習、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

B 社会と看護学

社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、看護学の基礎となる知識を修得する。また、社会における看護職の役割について学ぶ。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	B-3-3 国際社会と看護	国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について学ぶ。	① 国際社会の保健・医療・福祉における現状と課題について説明できる。 ② 国際的視野で、看護の対象となる人への配慮について説明できる。 ③ 日本の保健・医療・福祉の特徴を理解し、国際社会における看護の役割と貢献について考えることができる。	B-3-3)① B-3-3)② B-3-3)③	国際保健 国際保健、母性看護論 看護学概論、国際保健、老年看護論

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
C-1 看護学に基づいた基本的な考え方	C-1-1 看護の本質	看護とは何かを学ぶ。	① 看護の定義について説明できる。	C-1-1①	生活援助論、看護学概論、精神看護論、在宅看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習
			② 看護の目的について説明できる。	C-1-1②	生活援助論、看護学概論、精神看護論、在宅看護論、小児看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論
			③ 看護理論の役割や特定の理論の特徴について説明できる。	C-1-1③	実践看護論、看護学概論、精神看護論、小児看護論、老年看護論、総合実習、家族看護論、母性看護論
	C-1-2 ケアの概念とケアにおける看護学との関連	ケアの概念とケアにおける看護学の位置付けについて学ぶ。	① ケアの概念について説明できる。	C-1-2①	看護学概論、在宅看護論、老年看護論、精神看護論 コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 保健・医療・福祉に関わる専門職について説明できる。	C-1-2②	看護学概論、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児看護論、母性看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ ケアに関わる学問である看護学の位置付けについて説明できる。	C-1-2③	看護学概論、在宅看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習
	C-1-3 看護の観点から捉える人間	看護学を構成する概念について理解し、看護の観点に立った人間の捉え方を学ぶ。	① 看護学の主要な概念を説明できる。	C-1-3①	実践看護論、看護学概論、老年看護論、急性期看護論、慢性期看護論、家族看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習
			② 看護理論や看護現象を理解するための諸理論・概念を活用して人間について統合的に捉え説明できる。	C-1-3②	実践看護論、総合実習、精神看護論、精神看護支援技術演習、治療看護論、治療療養支援技術演習
	C-1-4 看護過程	看護過程の一連の流れについて知識として理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。	① 看護過程とは何かについて説明できる。	C-1-4①	実践看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護支援技術演習、在宅看護論、総合実習、老年看護論 コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、 成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護実習Ⅱ（小児）、急性期看護論、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 対象理解のための情報収集について説明できる。	C-1-4②	予防看護論、実践看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、小児療養看護論、 成育看護技術演習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、急性期看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる。	C-1-4③	予防看護論、実践看護論、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、 総合実習、在宅看護論、小児療養看護論、 成育看護技術演習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			④ 対象者のより良い健康状態を目指すために必要な専門知識の活用を説明できる。	C-1-4④	予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、小児療養看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児・母性）、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習（急性期）、医療看護実習（慢性期）
			⑤ 看護ニーズを明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。	C-1-4⑤	総合実習、在宅看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児・母性）、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、生活援助論
			⑥ 看護目標を設定し、具体的に計画立案・実施する方法を説明できる。	C-1-4⑥	実践看護論、総合実習、在宅看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 実施した看護を評価する方法を説明できる。	C-1-4⑦	総合実習、在宅看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、急性期看護論、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
毎日の生活は、様々な人や環境との関わりを通して営まれており、生活の在り方がその人らしさを際立たせていく。生活者としての成長・発達の課題を理解することを通して生活を支援する看護の視点を学ぶ。					
C-2 生活者としての人間理解	C-2-1 人間にとっての生活	人の生活行動と健康状態とのつながりを統合して捉えるための知識を学び、看護実践が人の生活の変化に対応して展開されることの理解を深める。	C-2-1)-(1) 生活行動の動機	C-2-1)-(1)①	生活援助論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、精神看護論、こころの健康増進と看護
			① 人間の基本的欲求について説明できる。	C-2-1)-(1)②	予防看護論、精神看護論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、慢性期看護論、医療看護実習（慢性期）、生活援助論
			② 生活における習慣、生きがい、信仰活動について理解できる。	C-2-1)-(2)①	生活概論・予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、食品学総論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、小児看護論
			C-2-1)-(2) 生活行動と生体機能	C-2-1)-(2)②	生活概論・予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、治療看護論
			① 食生活の成り立ち、食行動に影響を与える要因を理解し、健康にとって食の持つ意味を理解できる。	C-2-1)-(2)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、小児看護論
			② 食行動に関係する消化管と消化腺の構造と機能を説明できる。	C-2-1)-(2)④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 栄養とエネルギー代謝を説明できる。	C-2-1)-(2)⑤	予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル等の物質代謝を概説できる。	C-2-1)-(2)⑥	生活概論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療看護論、小児看護論
			⑤ 血糖の調節機構を説明できる。	C-2-1)-(2)⑦	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論
			⑥ 排せつ習慣、排せつ様式等、健康にとって排せつの持つ意味を理解できる。	C-2-1)-(2)⑧	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療看護論、小児看護論
⑦ 排せつに関わる消化管、腎臓と尿路の構造と機能を説明できる。	C-2-1)-(2)⑨	生活概論・生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、小児看護論			
⑧ 皮膚の構造と機能を説明できる。	C-2-1)-(2)⑩	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、小児看護論			
⑨ 清潔行動、清潔に対する認識等、健康にとって清潔の持つ意味を理解できる。					
⑩ 衣生活に関わる行動と意味について理解できる。					

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑪ 生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターン等、健康にとっての活動と休息の意味を理解できる。	C-2-1)-(2)⑪	生活概論・生活援助論・予防看護論、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護支援技術演習、在宅看護論、総合実習、 老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、医療看護実習（精神） 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑫ 生活行動に必要な骨と骨格筋、神経系の連携による運動のメカニズムを説明できる。	C-2-1)-(2)⑫	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療看護論、疾病と治療Ⅱ、医療 看護実習Ⅱ（急性期）
			⑬ 骨、軟骨、関節、靭帯、筋肉の構造と機能を説明できる。	C-2-1)-(2)⑬	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅱ 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			⑭ 生活における性と生殖について理解できる。	C-2-1)-(2)⑭	総合実習、女性の健康増進と看護、成育看護技術演習Ⅱ、 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			⑮ 男女の生殖器の構造と機能を説明できる。	C-2-1)-(2)⑮	総合実習、母性看護論、疾病と治療Ⅴ、 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			⑯ 性周期と加齢に伴う生殖機能の変化について説明できる。	C-2-1)-(2)⑯	総合実習、女性の健康増進と看護、母性看護論、 疾病と治療Ⅴ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			⑰ 生活における仕事と余暇について理解できる。	C-2-1)-(2)⑰	生活概論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑱ コミュニケーション（言語的・非言語的）の相互作用について理解できる。	C-2-1)-(2)⑱	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、 精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、 在宅看護論、総合実習、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護 実習Ⅱ（慢性期）、小児看護論
			⑲ 生活の中の学習行動について理解できる。	C-2-1)-(2)⑲	老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、生活援助論、予防看護 論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑳ 生活における精神の健康について理解できる。	C-2-1)-(2)⑳	精神看護論、精神看護師縁技術演習、こころの健康増進と看護、 老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ
			㉑ 外部から五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）を通して得られた感情について理解できる。	C-2-1)-(2)㉑	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、 精神看護支援技術演習、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療 看護論、小児看護論
			㉒ 各生活行動を統合して対象者の生活について理解できる。	C-2-1)-(2)㉒	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、 精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、 総合実習、在宅看護論、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、 医療看護実習Ⅱ（慢性期）、慢性期看護論、 成育看護実習Ⅱ（母性）、小児看護論

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			C-2-1)-(3) 生活者としての多様性 ① 多様な性の在り方について理解できる。	C-2-1)-(3)①	生活概論、生活援助論、予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、女性の健康増進と看護
			② 固有な生活の中で形成される心や人格の関係を理解できる。	C-2-1)-(3)②	精神看護論、発達心理学、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、慢性期看護論、小児看護論
			③ 人間の成長・発達に伴う生活行動・コミュニケーション・情緒・社会的役割の変化を理解できる。	C-2-1)-(3)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、小児看護論、小児療養看護論、老年看護論、こころの健康増進と看護、女性の健康増進と看護、慢性期看護論
			④ 地域や家族等、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解できる。	C-2-1)-(3)④	予防看護論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、コミュニティケアシステム論、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）女性の健康増進と看護、小児看護論
			⑤ 個の特性に応じて生活することの重要性を理解できる。	C-2-1)-(3)⑤	生活概論、生活援助論、予防看護論、精神看護論、精神看護師縁技術演習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、小児療養看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、女性の健康増進と看護、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、小児看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）
C-2-2	個人と家族		① 個人と家族の発達課題を理解できる。	C-2-2①	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、小児看護論
			② 夫婦関係が形成される過程について理解できる。	C-2-2②	公衆衛生看護学概論、総合実習
			③ 子どもが生まれ、家族が形成される過程を理解できる。	C-2-2③	公衆衛生看護学概論、総合実習、母性看護論 女性の健康増進と看護
			④ 家族のそれぞれの構成員が家庭生活を営む上でどのように機能しているかを理解できる。	C-2-2④	公衆衛生看護学概論、総合実習、家族看護論 女性の健康増進と看護
			⑤ 子どもを産み育てる家族の機能を理解できる。	C-2-2⑤	公衆衛生看護学概論、家族看護論、総合実習、母性看護論
			⑥ 家族のセルフケア機能を理解できる。	C-2-2⑥	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論、
			⑦ 家族の社会化機能を理解できる。	C-2-2⑦	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論、
			⑧ 経済的側面が家族に与える影響を理解できる。	C-2-2⑧	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論、
			⑨ 家族をシステムとして理解し家族介入の基本を理解できる。	C-2-2⑨	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	C-2-3 生活環境としての場		① 生活の場としての地域・社会の意味を説明できる。	C-2-3①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 社会福祉・社会活動論、医療看護実習Ⅱ（精神）、 総合実習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、 コミュニティケアシステム論、女性の健康増進と看護、コミュニ ティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習 Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅰ
			② 生活とは何か、生活と環境や文化との関係を説明できる。	C-2-3②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 社会福祉・社会活動論、医療看護実習Ⅱ（精神）、 総合実習、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、 女性の健康増進と看護、コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実 習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅰ

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	C-2-4 地域社会における生活者		① 地域社会の文化、慣習が生活に及ぼす影響について説明できる。	C-2-4①	生活概論、公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、コミュニティケアシステム論、女性の健康増進と看護、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 地域社会において他者への依存と自立のバランスが生活に及ぼす影響について理解できる。	C-2-4②	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、家族看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成人看護実習Ⅰ
			③ 死の概念、個人や家族にとっての死及び看取りの意味を理解できる。	C-2-4③	小児療養看護論、在宅看護論、総合実習、老年看護論、女性の健康増進と看護、慢性期看護論
身体的・精神的側面から人間を理解するために必要な体の仕組み及び機能を学ぶ。これらは、全て看護実践において臨床推論の根拠として活用し、知識を統合して全人的にアセスメントするために活用されるものである。					
C-3 生物学的に共通する身体的・精神的な側面の人間理解	C-3-1 細胞と組織	生命体の最小単位である細胞の成り立ちや遺伝子、器官を構成する組織に関する基本事項を学ぶ。	C-3-1-(1) ゲノムと遺伝子、細胞	C-3-1-(1)①	人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			① ゲノムと染色体と遺伝子、遺伝の基本的機序を説明できる。	C-3-1-(1)②	人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学
			② 細胞周期と細胞分裂を説明できる。	C-3-1-(1)③	人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、栄養代謝学
			③ 細胞の構造を説明できる。	C-3-1-(2)①	人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
	C-3-2 生命維持と生体機能の調節	生命維持のための生体機能の基本的事項を学ぶ。	C-3-1-(2) 組織	C-3-1-(2)①	人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			① 人体を構成する4つの組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）を説明できる。	C-3-2-(1)①	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			C-3-2-(1) ホメオスタシス	C-3-2-(1)②	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			① 体液の量と組成を説明できる。	C-3-2-(1)③	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論、栄養代謝学、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			② 体液の調節（体液量、電解質バランス、浸透圧）を説明できる。	C-3-2-(1)④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、生活援助論、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、小児看護論
			③ 酸塩基平衡の調節機構を説明できる。	C-3-2-(2)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療療養支援技術演習、小児看護論
			④ 体温の調節機構を説明できる。	C-3-2-(2)②	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、治療看護論、治療療養支援技術演習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、小児看護論
			C-3-2-(2) 呼吸器系	C-3-2-(3)①	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論
			① 気道の構造と機能を説明できる。	C-3-2-(3)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、コミュニティ看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 肺の構造と機能（呼吸の機序とその調節系を含む）を説明できる。		
C-3-2-(3) 循環器系と血液					
① 心・血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる。					
② 血圧の調節機構を説明できる。					

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			③ 血液の成分と機能を説明できる。	C-3-2)-(3)③	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、治療療養支援技術演習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			④ 造血器と造血機能を説明できる。	C-3-2)-(3)④	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅲ
			⑤ 止血と血液凝固・線溶系を説明できる。	C-3-2)-(3)⑤	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論、疾病と治療Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			⑥ 血液型（ABO 式、Rh 式）を説明できる。	C-3-2)-(3)⑥	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論
			C-3-2)-(4) 免疫系	C-3-2)-(4)①	感染免疫学、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			① 免疫応答を説明できる。		
			② 自然免疫と獲得免疫を説明できる。	C-3-2)-(4)②	感染免疫学、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ
			③ 液性免疫と細胞性免疫を説明できる	C-3-2)-(4)③	感染免疫学、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			C-3-2)-(5) 体内・外の情報伝達と調節機構（神経系、感覚器系、内分泌系） ① 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。 ② 末梢神経系の機能的分類（体性神経と自律神経）を説明できる。	C-3-2)-(5)① C-3-2)-(5)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			③ 体性感覚（皮膚感覚と深部感覚）を説明できる。 ④ 視覚器、聴覚・平衡覚器、嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる。 ⑤ 各内分泌系の構造と機能、調節機構を説明できる。 ⑥ 主なホルモンの特徴と生理作用を説明できる。	C-3-2)-(5)③ C-3-2)-(5)④ C-3-2)-(5)⑤ C-3-2)-(5)⑥	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ 総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論 総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、 栄養代謝学、疾病と治療Ⅲ、慢性看護論 総合実習、母性看護論、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			⑦ ネガティブフィードバックを説明できる。 ⑧ ストレス反応について説明できる。	C-3-2)-(5)⑦ C-3-2)-(5)⑧	総合実習、疾病と治療Ⅴ、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ こころの健康増進と看護、総合実習、 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、予防看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
C-3-3	生命誕生、成長・発達と加齢、ヒトの死	妊娠から胎児の発育、生命誕生、人間の成長・発達の過程、加齢の影響、生物学的な死に関する基本的事項を学ぶ。	C-3-3)-(1) 妊娠・分娩・産褥 ① 受精から細胞分裂、器官形成の過程について説明できる。 ② 妊娠週数に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。 ③ 妊娠週数に応じた胎児の成長・発達について説明できる。 ④ 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生直後の変化を説明できる。 ⑤ 出産の機序について説明できる。 ⑥ 分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。 ⑦ 産褥期の母体の心身の変化・特徴について説明できる。	C-3-3)-(1)① C-3-3)-(1)② C-3-3)-(1)③ C-3-3)-(1)④ C-3-3)-(1)⑤ C-3-3)-(1)⑥ C-3-3)-(1)⑦	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅱ 母性看護論 母性看護論 母性看護論 母性看護論 母性看護論 母性看護論 母性看護論
			C-3-3)-(2) 成長・加齢による変化 ① 新生児の身体・生理的特徴を説明できる。 ② 小児期における身体・生理的特徴、精神・運動・社会的発達を説明できる。 ③ 思春期・成人期における身体的・心理的・社会的変化を説明できる。 ④ 加齢（更年期を含む）に伴う身体的・心理的・社会的変化を説明できる。	C-3-3)-(2)① C-3-3)-(2)② C-3-3)-(2)③ C-3-3)-(2)④	母性看護論 小児看護論、小児療養看護論、精神看護論、こころの健康増進と看護 小児看護論、小児療養看護論、女性の健康増進と看護、慢性期看護論、精神看護論、こころの健康増進と看護 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、女性の健康増進と看護、コミュニティ看護実習Ⅰ、精神看護論、こころの健康増進と看護、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			C-3-3)-(3) ヒトの死 ① 生物学的な死の概念と定義を説明できる。 ② 植物状態と脳死の違いを説明できる。 ③ ヒトにとっての死について説明できる。	C-3-3)-(3)① C-3-3)-(3)② C-3-3)-(3)③	総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論 人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、急性期看護論 在宅看護論、総合実習、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
C-4 疾病の成り立ちを学び、対象理解を深めることにつなげる。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。					
C-4 疾病と回復過程の理解	C-4-1 病態の成り立ちと回復過程	正常な状態から病態への移行と回復過程について学び、看護につなげる。	C-4-1)-(1) 細胞障害・変性と細胞死 ① 萎縮、変性、肥大、細胞死（ネクローシスとアポトーシス）を説明できる。	C-4-1)-(1)①	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、
			② 細胞障害・変性と細胞死の病因を概説できる。	C-4-1)-(1)②	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、
			③ 組織の形態的变化の特徴を説明できる。	C-4-1)-(1)③	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、
			④ 細胞の寿命、DNA 損傷・修復を説明できる。	C-4-1)-(1)④	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、
			C-4-1)-(2) 修復と再生 ① 修復と再生を説明できる。	C-4-1)-(2)①	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、急性期看護論
		② 創傷治癒の過程を説明できる。	C-4-1)-(2)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、疾病と治療Ⅰ 疾病と治療Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）	
	C-4-2 基本的な病因と病態	対象理解に必要な病因と生体反応に関する基本事項を学び、看護につなげる。	C-4-2)-(1) 遺伝的多様性と疾病 ① ゲノムの多様性に基づく個体の多様性について概説できる。	C-4-2)-(1)①	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、人体のしくみと機能Ⅱ
			② 主な遺伝性疾患（単一遺伝子疾患、染色体異常、多因子疾患）を説明できる。	C-4-2)-(1)②	疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、
			C-4-2)-(2) 栄養・代謝障害 ① 糖代謝異常の病因・病態を説明できる。	C-4-2)-(2)①	総合実習、疾病と治療Ⅰ、栄養代謝学、疾病と治療Ⅲ、予防看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			② タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態を説明できる。	C-4-2)-(2)②	総合実習、疾病と治療Ⅰ、栄養代謝学、疾病と治療Ⅲ、予防看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
③ 脂質代謝異常の病因・病態を説明できる。			C-4-2)-(2)③	総合実習、疾病と治療Ⅰ、栄養代謝学、疾病と治療Ⅲ、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）	
④ 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病因・病態を説明できる。			C-4-2)-(2)④	疾病と治療Ⅰ	
⑤ 無機質代謝異常の病因・病態を説明できる。			C-4-2)-(2)⑤	疾病と治療Ⅰ	
C-4-2)-(3) 循環障害 ① 血行障害（虚血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因・病態を説明できる。			C-4-2)-(3)①	総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）	
② 血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態を説明できる。			C-4-2)-(3)②	総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅲ、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）	
C-4-2)-(4) 炎症 ① 炎症の分類、組織の形態学的変化と経時的変化（局所変化と全身的变化）を説明できる。			C-4-2)-(4)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、治療看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）	
② 感染症による炎症性変化を説明できる。	C-4-2)-(4)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）			
C-4-2)-(5) 腫瘍 ① 腫瘍の病因を説明できる。	C-4-2)-(5)①	総合実習、疾病と治療Ⅴ、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）			
② 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。	C-4-2)-(5)②	総合実習、疾病と治療Ⅴ、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ			

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			③ 腫瘍の分類、分化度、グレード、ステージを説明できる。	C-4-2)-(5)③	疾病と治療Ⅴ、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			④ 腫瘍の浸潤・転移について説明できる。	C-4-2)-(5)④	疾病と治療Ⅴ、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、治療看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			C-4-2)-(6) 感染 ① 感染の成立と予防を説明できる。	C-4-2)-(6)①	総合実習、疾病と治療Ⅴ、感染免疫学、医療看護実習Ⅰ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療療養支援技術演習、成育看護実習Ⅱ（小児）
			② ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫、プリオンを説明できる。	C-4-2)-(6)②	総合実習、疾病と治療Ⅴ、感染免疫学
			③ 薬剤耐性（多剤耐性）を説明できる。	C-4-2)-(6)③	総合実習、感染免疫学、治療看護論

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
C-5 健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応の理解	主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげる。				
	C-5-1	病（やまい）を患う人の身体的・精神的状態を全体的に理解し、看護につなげる。	① 病に対する人間の身体的・精神的反応を全体的に理解できる。	C-5-1)①	こころの健康増進と看護、在宅看護論、総合実習、小児看護論、成育看護技術演習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、家族看護論
	病（やまい）に対する人間の反応		② 主要な症状（意識障害、けいれん、吐血・喀血、胸痛、乏尿・無尿・頻尿、疼痛（慢性の痛みを含む）等）と症状のマネジメントを理解できる。	C-5-1)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、小児看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、慢性期看護論、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、母性看護論
	C-5-2	疾病の診断に用いる検査・治療に関する基本事項を学び、検査・治療を受ける人の看護につなげる。	① 基本的な検体検査、生体機能検査、画像検査、内視鏡検査、心理・精神機能検査を説明できる。	C-5-2)①	総合実習、疾病と治療Ⅱ、治療看護論、予防看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
	疾病の診断に用いる検査と治療		② 薬物治療を概説できる。	C-5-2)②	薬理学、疾病と治療Ⅳ、成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、慢性期看護論、予防看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論
			③ 手術治療を概説できる。	C-5-2)③	総合実習、疾病と治療Ⅱ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			④ 放射線治療を概説できる。	C-5-2)④	総合実習、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論
			⑤ 食事療法を概説できる。	C-5-2)⑤	予防看護論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、慢性期看護論、栄養代謝学、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ リハビリテーションを概説できる。	C-5-2)⑥	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、慢性期看護論、コミュニティ看護実習Ⅰ、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 輸血・輸液を概説できる。	C-5-2)⑦	総合実習、治療療養支援技術演習、治療看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
⑧ 人工臓器、透析、臓器移植・再生医療を概説できる。			C-5-2)⑧	総合実習、急性期看護論、慢性期看護論	
⑨ 精神療法を概説できる。			C-5-2)⑨	疾病と治療Ⅳ、精神看護論、精神看護支援技術演習、こころの健康増進と看護、総合実習	
⑩ 代替療法のエビデンスと位置付けを説明できる。			C-5-2)⑩	総合実習、女性の健康増進と看護	

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
C-5-3	主な健康障害と人間の反応	<p>主要な健康障害に関する知識を学び、健康障害に対する人間の反応を理解し、観察、診療の補助、生活援助、患者・家族教育等、看護の重要な機能に結び付けられるようにする。後出のD 看護実践の基本となる専門基礎知識に示すねらいを達成するために以下の学修目標を置く。</p>	<p>C-5-3)-(1) 循環器系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 循環器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 心不全、虚血性心疾患、主な不整脈、主な弁膜症、心筋・心膜疾患、主な先天性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、挫滅症候群、血圧異常、ショック、チアノーゼ等</p>	C-5-3)-(1)①	<p>コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、疾病と治療Ⅰ、総合実習、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）</p>
			<p>C-5-3)-(2) 血液・造血器系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 血液・造血器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 貧血、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患等</p>	C-5-3)-(2)①	<p>総合実習、疾病と治療Ⅰ、慢性期看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）</p>
			<p>C-5-3)-(3) 呼吸器系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 呼吸器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 咳嗽・喀痰、呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性障害を来す肺疾患、肺循環障害、気胸、腫瘍等</p>	C-5-3)-(3)①	<p>コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、予防看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、治療看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）</p>
			<p>C-5-3)-(4) 消化器系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 消化器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な口腔・咽頭の疾患、う歯、歯周病、嚥下障害、嘔気・嘔吐、主な消化管疾患、腹痛・腹部膨満、イレウス、排便障害、下血・黄疸、主な肝臓・胆嚢・膵臓疾患、腹壁・腹膜・横隔膜の疾患、先天性消化器疾患等</p>	C-5-3)-(4)①	<p>コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）</p>
			<p>C-5-3)-(5) 内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な間脳・下垂体疾患、主な甲状腺疾患、主な副甲状腺（上皮小体）疾患、主な副腎皮質・髄質疾患、内分泌系の腫瘍、メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症等</p>	C-5-3)-(5)①	<p>総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、予防看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）栄養代謝学、治療看護論</p>
			<p>C-5-3)-(6) 水電解質・酸塩基平衡系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 水電解質・酸塩基平衡系の健康障害と人間の反応について概説できる。 浮腫・脱水、電解質の異常、アシドーシス・アルカローシス等</p>	C-5-3)-(6)①	<p>総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、感染免疫学、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）</p>
			<p>C-5-3)-(7) 泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応</p> <p>① 泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 主な上部尿路疾患、主な下部尿路疾患、主な排尿障害、女性生殖器の疾患、乳腺の疾患、男性生殖器の疾患、生殖機能障害、性感染症、性分化疾患等</p>	C-5-3)-(7)①	<p>総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、疾病と治療Ⅴ、慢性期看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）</p>

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			C-5-3)-(8) 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応 ① 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。 自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症、主なウイルス感染症、主な細菌感染症、主なマイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症、主な真菌感染症、寄生虫症、医療関連感染、日和見感染、敗血症等	C-5-3)-(8)①	総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、感染免疫学、コミュニティ看護実習（老年）、成育看護実習Ⅱ（小児）
			C-5-3)-(9) 感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応 ① 感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、嗅覚障害、味覚障害、皮膚障害、主な脳脊髄疾患、頭痛、運動の異常（麻痺・失調）、言語障害、認知症、主な末梢神経疾患、主な骨・関節・骨髄疾患等	C-5-3)-(9)①	総合実習、疾病と治療Ⅰ、疾病と治療Ⅱ、慢性期看護論、急性期看護論、コミュニティ看護実習（老年）、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）
			C-5-3)-(10) 精神・心身の健康障害と人間の反応 ① 精神・心身の健康障害と人間の反応について概説できる。 統合失調症、気分（感情）障害、自律神経失調症、神経症性障害、ストレス関連障害、食行動・摂食障害、睡眠障害、小児・青年期の精神・心身の医学的疾患、成人・老年期の人格・行動障害、性同一性障害、産後うつ、様々な依存症等	C-5-3)-(10)①	総合実習、女性の健康増進と看護、疾病と治療Ⅴ、母性看護論、精神看護論、精神看護支援技術演習、コミュニティ看護実習（老年）、成育看護実習Ⅱ（小児）

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			C-5-3)-(11) 小児特有の健康障害と人間の反応 ① 小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。 発育不全、先天性疾患、脳性麻痺、発達障害、児童虐待等	C-5-3)-(11)①	総合実習、疾病と治療VI、女性の健康増進と看護、成育看護実習II（小児）
			C-5-3)-(12) 物理・化学的因子による健康障害と人間の反応 ① 物理・化学的因子による健康障害と人間の反応について概説できる。 食中毒、主な中毒、高温による障害、寒冷による障害、熱傷、外傷、褥瘡等	C-5-3)-(12)①	総合実習、災害看護、医療看護実習II（急性期）

C 看護の対象理解に必要な基本的知識

人間の生活者としての側面及び生物学的に共通する人間の身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を修得し、取り巻く様々な環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。このような人間理解を基盤として、健康に関与するための看護の理論を学び、看護の基本を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
C-5-4 薬物や放射線による人間の反応	C-5-4-(1) 薬物及び薬物投与による人間の反応 的確な薬物療法を行うために必要な基本的な考え方（薬理作用、有害事象、与薬時の注意事項）と看護援助を学ぶ。		① 薬物の作用点（受容体、イオンチャンネル、酵素、トランスポーター）を説明できる。	C-5-4)-(1)①	薬理学、総合実習
			② 薬理作用を規定する要因（用量と反応、親和性等）や薬物動態（吸収、分布、代謝、排せつ）を説明できる。	C-5-4)-(1)②	薬理学、総合実習、治療看護論
			③ 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。	C-5-4)-(1)③	薬理学、総合実習、治療看護論
			④ 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。	C-5-4)-(1)④	総合実習、老年看護実践方法論
			⑤ 薬物の投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）の違いによる特徴と看護援助を説明できる。	C-5-4)-(1)⑤	総合実習、治療療養支援技術演習、治療看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）
			⑥ 小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点と看護援助を説明できる。	C-5-4)-(1)⑥	疾病と治療Ⅰ、老年看護実践方法論、精神看護支援技術演習、小児療養看護論、総合実習、母性看護論、治療療養支援技術演習、成育看護実習Ⅱ（小児）、母性看護論
			⑦ 主な治療薬（末梢神経系に作用する薬、中枢神経系に作用する薬、循環器系に作用する薬、血液に作用する薬、呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬、内分泌・代謝系に作用する薬、腎・尿路系に作用する薬、感覚器系に作用する薬、生殖器系に作用する薬、免疫系に作用する薬、予防接種、抗感染薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、分子標的薬、医療用麻薬、麻酔薬、主な和漢薬（漢方薬））の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。	C-5-4)-(1)⑦	薬理学、疾病と治療Ⅳ、精神看護支援技術演習、総合実習、感染免疫学、予防看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）、母性看護論
			⑧ 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。	C-5-4)-(1)⑧	総合実習
			⑨ 薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。	C-5-4)-(1)⑨	治療療養支援技術演習、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、在宅看護論
			⑩ 薬害について概説できる。	C-5-4)-(1)⑩	看護倫理
			⑪ 薬剤の職業性ばく露について説明できる。	C-5-4)-(1)⑪	治療看護論
	C-5-4)-(2) 放射線の医療利用による人間の反応 放射線の医療利用（放射線診断、放射線治療、輸血用の血液に対する放射線照射等）、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策を学ぶ。		① 放射線診断、放射線治療の意義を説明できる。	C-5-4)-(2)①	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ
			② 放射線の人体への作用機序を説明できる。	C-5-4)-(2)②	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ
			③ 放射線の健康影響・リスクと被ばく線量との関係を説明できる。	C-5-4)-(2)③	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ、母性看護論
			④ 放射線診断に伴う有害事象（造影剤の副作用等）を説明できる。	C-5-4)-(2)④	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ
			⑤ 放射線診断に伴うリスクと看護について説明できる。	C-5-4)-(2)⑤	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ、治療看護論
			⑥ 放射線治療に伴う有害事象（副作用）とその看護について説明できる。	C-5-4)-(2)⑥	急性期看護論、疾病と治療Ⅱ
			⑦ 医療者自身の被ばく防護方策を説明できる。	C-5-4)-(2)⑦	治療看護論
			⑧ 放射線被ばくに対する不安を理解し、関係職種とともに適切に対応できる。	C-5-4)-(2)⑧	急性期看護論

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-1 看護過程展開の基本	D-1-1 看護の基礎となる対人関係の形成	看護の対象となる人との関係を形成する意義と方法を学ぶ。	① 看護の目的意識をもって対象者に関心を寄せることができる。	D-1-1①	生活援助論、実践看護論、看護学概論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期） コミュニティ看護実習Ⅰ
			② 言語表現・非言語表現を用いた対象者との相互作用を通して関係を形成することができる。	D-1-1②	学びのグループゼミⅠⅡⅢⅣ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティ看護実習Ⅰ
			③ 対象者の様々な特性や多様性に応じた関係を形成することができる。	D-1-1③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	D-1-2 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握	対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する身体的・精神的側面、環境との関係の側面、成長・発達の側面）を収集し、看護の視点から統合して対象者の経験や望み（意向）を共有しながらアセスメントする方法を学ぶ。	① 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集できる。	D-1-2①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 得られた情報を系統的・継続的に整理し、アセスメントできる。	D-1-2②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ アセスメントに基づき対象者の全体像を描くことができる。	D-1-2③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			④ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験してきたことや望み（意向）を共有しニーズの把握につなげることができる。	D-1-2④	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、老年看護論 コミュニティ看護実習Ⅱ 総合実習、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、生活援助論、コミュニティ看護実習Ⅰ
			⑤ 全体像を描きながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる。	D-1-2⑤	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
D-1-3	計画立案・実施	アセスメントに基づく個別性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護実践の方法を学ぶ。	① 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる。	D-1-3①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる。	D-1-3②	精神看護支援技術演習、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 目標・要件に応じた評価日を設定して示すことができる。	D-1-3③	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践に応用できる。	D-1-3④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、生活援助論
			⑤ 対象者がより良い方法を選択する過程を支えることができる。	D-1-3⑤	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験や望み（意向）、強み（ストレングス）、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。	D-1-3⑥	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	D-1-4 実施した看護の評価	看護過程全体を振り返ることによる、実施した看護の成果に対する評価を学ぶ。	① 実施した看護を評価する意義を理解できる。	D-1-4①	精神看護支援技術演習、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅱ、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 実施した看護を評価できる。	D-1-4②	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 評価の基準に基づき、目標の達成状況を確実に評価できる。	D-1-4③	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 評価に基づき、看護計画を修正できる。	D-1-4④	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 実施した看護の振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、 学修課題の明確化と実践の修正ができる。	D-1-4⑤	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-2 基本的な看護技術	D-2-1 看護技術の本質	看護技術は、看護の専門知識に基づいて、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指した行為であることを学ぶ。	① 看護の行為としての看護技術の目的・特徴について説明できる。	D-2-1①	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護支援技術演習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、 成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、総合実習 成育看護技術演習Ⅰ、治療看護論、治療療養支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			② 対象者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを説明できる。	D-2-1②	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ 精神看護支援技術演習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、 成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、総合実習 成育看護技術演習Ⅰ、治療看護論、治療療養支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 看護技術を評価する方法を説明できる。	D-2-1③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 精神看護支援技術演習、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、治療看護論、 治療療養支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
D-2-2 看護実践に共通する看護基本技術	看護実践に共通する基本的な技術を修得する。	看護実践に共通する基本的な技術を修得する。	D-2-2)-(1) 観察・アセスメント ① 看護の視点で対象者を観察することができる。	D-2-2)-(1)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 精神看護支援技術演習、 コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、 総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、 成育看護技術演習Ⅰ、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、 老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② フィジカルアセスメントができる。	D-2-2)-(1)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、 総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅰ、 成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 基本的な生活行動の観点から対象者をアセスメントできる。	D-2-2)-(1)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、 精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、 総合実習、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、 在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、 コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			④ 収集した情報を統合して健康状態をアセスメントできる。	D-2-2)-(1)④	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 対象者を取り巻く社会環境をアセスメントできる。	D-2-2)-(1)⑤	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 生活者としての側面と生物学的に共通する身体的・精神的な側面の両側面を統合して人間を捉えることができる。	D-2-2)-(1)⑥	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 家族の機能の側面から家族をアセスメントできる。	D-2-2)-(1)⑦	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、家族看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ、治療看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ 精神機能のアセスメントができる。	D-2-2)-(1)⑧	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅱ
			D-2-2)-(2) 安全を守る看護技術 ① 安全な療養環境について説明できる。	D-2-2)-(2)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅰ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 感染予防ができる。	D-2-2)-(2)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅰ、医療看護実習Ⅰ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、コミュニティ看護実習Ⅰ、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療療養支援技術演習

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			D-2-2)-(3) 安楽を図る看護技術 ① 基本体位を理解し、安楽を図ることができる。	D-2-2)-(3)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護技術演習Ⅰ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ
			② 精神的安寧を保つ工夫ができる。	D-2-2)-(3)②	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅰ
			③ リラクゼーション技術を修得する。	D-2-2)-(3)③	こころの健康増進と看護、総合実習、成育看護技術演習Ⅰ、生活援助論
			D-2-2)-(4) コミュニケーション技術 ① 看護におけるコミュニケーション技術を修得する。	D-2-2)-(4)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、コミュニケーション論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅰ、生活援助論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療看護論、栄養代謝学
D-2-3 日常生活の援助技術	安全で快適な療養生活を支援するための基本的な看護技術を学ぶ。	① 環境調整技術を修得する。	D-2-3)①	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	
		② 食事援助技術を修得する。	D-2-3)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、栄養代謝学、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	
		③ 排せつ援助技術を修得する。	D-2-3)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	
		④ 活動・休息援助技術を修得する。	D-2-3)④	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	
		⑤ 清潔・衣生活援助技術を修得する。	D-2-3)⑤	生活援助論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、成育看護技術演習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）	
		⑥ 呼吸・循環を整える技術を修得する。	D-2-3)⑥	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児・母性）、治療看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）	

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	D-2-4 診断・治療に伴う援助技術	診断・治療の場面において、安全・安楽に受療できるための基本的な看護技術を学ぶ。	① 検査に伴う援助技術を修得する。	D-2-4)①	総合実習、成育看護技術演習Ⅰ、治療療養支援技術演習
			② 創傷管理技術を修得する。	D-2-4)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、治療療養支援技術演習、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			③ 与薬の技術を修得する。	D-2-4)③	在宅看護論、総合実習、成育看護技術演習Ⅰ（小児）、治療療養支援技術演習、治療看護論
			④ 救命救急処置技術を修得する。	D-2-4)④	総合実習、治療看護論
			⑤ 症状・生体危機管理技術を修得する。	D-2-4)⑤	総合実習、成育看護技術演習Ⅰ（小児）、治療療養支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践	D-3-1 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、性と生殖の特徴を踏まえた健康を支えるための看護実践を学ぶ。特に、周産期にある人は、身体的・心理的・社会的変化や家族の変化への適応を求められる。これらの特性を踏まえて、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象者や家族に対する看護実践を学ぶ。	① 母性看護学の諸概念を理解できる。	D-3-1)①	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			② 女性のライフサイクル各期の健康課題を理解し、看護を説明できる。	D-3-1)②	女性の健康増進と看護
			③ 性の多様性を理解し、アセスメントできる。	D-3-1)③	女性の健康増進と看護
			④ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的变化について理解し、アセスメントできる。	D-3-1)④	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑤ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者のヘルスプロモーションを理解し、看護を実践できる。	D-3-1)⑤	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑥ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について、そのメカニズムと対象者に及ぼす影響を理解し、安全・安楽のための看護を説明できる。	D-3-1)⑥	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑦ 人々のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する社会問題を理解し、対象者の社会生活を支える看護を説明できる。	D-3-1)⑦	女性の健康増進と看護
			⑧ 母子の健康生活について理解し、それを支える産後ケアや育児支援、母子保健のシステムについて説明できる。	D-3-1)⑧	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑨ 周産期の家族が抱える親子の愛着、絆の形成と役割発達等の発達課題と家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護を説明できる。	D-3-1)⑨	母性看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑩ 家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支えるための看護を理解し、多職種との連携・協働が理解できる。	D-3-1)⑩	小児療養看護論、女性の健康増進と看護、成育看護実習Ⅱ（母性）、母性看護論
D-3-2 小児期にある人々に対する看護実践	小児期は、新生児期から乳幼児期、学童・思春期、更に青年期に至るまでの目覚ましい成長・発達段階にある。家族との愛着形成を基盤に、自己概念の形成、セルフケア獲得、社会生活への適応等の発達を遂げることを理解し、子どもと家族の健康習慣の形成、健康状態に応じた養育や生活の調整、安全・安楽の保持等により、子どもが自分らしい生活を実現できるよう看護実践を学ぶ。	① 子どもの権利擁護の重要性を理解し、看護を実践できる。	D-3-2)①	成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）	
		② 子どもの成長・発達に関してアセスメントできる。	D-3-2)②	成育看護実習Ⅱ（小児）、小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）	
		③ 成長・発達段階に適した看護実践の方法を見いだすとともに、セルフケア獲得等の成長・発達そのものを家族とともに支える看護を実践できる。	D-3-2)③	成育看護実習Ⅱ（小児）	
		④ 子どもの成長・発達と健康上の課題を統合するとともに、病院や家庭、学校等の場に応じた対象者のニーズを捉えて看護を説明できる。	D-3-2)④	成育看護実習Ⅱ（小児）、小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）	
		⑤ 病気や入院生活が子どもに及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和、安全・安楽の保持を基本とする看護を説明できる。	D-3-2)⑤	小児看護論、小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）	
		⑥ 子どもに特有な看護技術を理解し、対象者に適した方法で実践することについて説明できる。	D-3-2)⑥	成育看護技術演習Ⅰ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）	
		⑦ 様々な病期・症状・治療に応じた子ども（医療的ケア児を含む）の特徴を理解し、必要な看護を説明できる。	D-3-2)⑦	小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）	
		⑧ 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。	D-3-2)⑧	小児看護論、小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）、成育看護実習Ⅱ（小児）	
		⑨ 子どもの病気や入院生活が家族に及ぼす影響を理解し、病状や発達段階、家族の特性に応じて家族全体への看護を説明できる。	D-3-2)⑨	小児看護論、小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（母性）、成育看護実習Ⅱ（小児）	
		⑩ 虐待等、特別な状況にある子どもや家族、社会の特徴を理解し、必要な看護を理解できる。	D-3-2)⑩	小児看護論、小児療養看護論、女性の健康増進と看護、成育看護実習Ⅱ（小児）	

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			① 成人移行期における治療継続や自分らしい生活の実現のための看護を説明できる。	D-3-2)①	小児療養看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）
D-3-3	成人期にある人々に対する看護実践	成人期は、社会の一員として就労し、新たな家族や友人関係を育み、新たな役割や仕事を確立していく年代にある。身体的には、基礎代謝を含む身体の生理的状況が安定するとともに生殖機能が成熟する。また、仕事や家庭、及び地域での役割を通して、自らの特性や価値観を自覚していく。その一方で、加齢に伴う身体機能の低下を自覚し始める。このような発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護実践を学ぶ。	① 成人期の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。	D-3-3)①	総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 成人期にある人の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる。	D-3-3)②	総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、予防看護論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			③ Adolescent and Young Adult<AYA>、トランジション等の健康課題について、小児期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントできる。	D-3-3)③	総合実習、小児療養看護論
			④ 必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理解できる。	D-3-3)④	予防看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、女性の健康増進と看護、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、医療看護実習Ⅱ（急性期）
D-3-4	老年期にある人々に対する看護実践	老年期は、これまで個々の人生を積み重ね、その人らしさがより際立つ年代にある。また、人生の最終段階を生きる年代にある。これまでに培ってきたその人らしさを尊重しつつ、身体的・心理的・社会的変化やスピリチュアリティ、発達課題を踏まえ、健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。	① 高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる。	D-3-4)①	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱコミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、コミュニティ看護実習Ⅰ
			② 高齢者の健康障害リスク（転倒、痛み、せん妄、認知機能の低下、うつ、低栄養、嚥下障害、褥瘡等）についてアセスメントし、予防する看護を説明できる。	D-3-4)②	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、女性の健康増進と看護、コミュニティ看護実習Ⅰ、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			③ 高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる。	D-3-4)③	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			④ 高齢者がその人らしく生きるため、多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について考察できる。	D-3-4)④	老年看護実践方法論、在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅰ、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			⑤ 高齢者の個性、価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について考察できる。	D-3-4)⑤	老年看護実践方法論、在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅰ
			⑥ 認知症の高齢者の特性や看護について説明できる。	D-3-4)⑥	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、コミュニティ看護実習Ⅰ、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）在宅看護論、総合実習
			⑦ 高齢者虐待の種類や特徴を理解し、看護職の役割を理解できる。	D-3-4)⑦	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、老年看護論
			⑧ 高齢者の尊厳と生活の質（Quality Of Life<QOL>）を支える看護について考察できる。	D-3-4)⑧	老年看護実践方法論、コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、女性の健康増進と看護、コミュニティ看護実習Ⅰ、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-4 健康の段階に応じた看護実践	D-4-1 予防が必要な人々に対する看護実践	予防が必要な対象者（個人・家族・集団等）について理解し、健康増進、自立の促進等を目指した看護実践を学ぶ。	① 対象者の強み（ストレングス）を引き出し、健康増進、自立の促進等を目指した看護を実践できる。	D-4-1)①	精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、女性の健康増進と看護、成育看護技術演習Ⅱ、母性看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）
			② 対象者の行動変容に対する理解、関心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な看護を実践できる。	D-4-1)②	予防看護論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、総合実習、成育看護技術演習Ⅱ、女性の健康増進と看護
			③ フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる。	D-4-1)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、総合実習、老年看護論、老年看護実践方法論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、慢性期看護論
			④ 心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診等のシステムとその活用について説明できる。	D-4-1)④	予防看護論、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、総合実習、女性の健康増進と看護
			⑤ 心身の健康障害に対する正しい理解への啓発活動について説明できる。	D-4-1)⑤	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、総合実習、女性の健康増進と看護
			⑥ 地域における心身の健康増進や障害者の生活を支えるシステムについて説明できる。	D-4-1)⑥	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、女性の健康増進と看護
	D-4-2 急性期にある人々に対する看護実践	小児、成人、老年といった各年代に応じた急性期や重症な状態、周術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。	① 急性期や重症な状態にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。	D-4-2)①	成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 急性期や重症な状態にある人をアセスメントできる。	D-4-2)②	成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 急性期や重症な状態にある人に対する優先順位を踏まえた看護を説明できる。	D-4-2)③	成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 主な検査・処置等を受ける人の検査・処置に対する理解と意思決定を支える看護を実践できる（採血、心電図、エックス線、CT、MRI、エコー、内視鏡等）。	D-4-2)④	成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 手術を受ける人をアセスメントできる。	D-4-2)⑤	成育看護実習Ⅱ（小児）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 手術を受ける人の手術療法への理解と意思決定を支える看護を実践できる。	D-4-2)⑥	成育看護実習Ⅱ（小児）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 疾患や治療（手術療法、薬物療法、化学療法、放射線療法等）に応じた観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護を実践できる。	D-4-2)⑦	成育看護実習Ⅱ（小児）、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、総合実習
			⑧ 術後合併症を予防するための看護を説明できる。	D-4-2)⑧	小児療養看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑨ 認知機能の低下や精神疾患等の特徴を持つ人の急性期治療に対する反応を理解し、安全・安楽を守る看護を説明できる。	D-4-2)⑨	精神看護支援技術演習、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティ看護実習Ⅰ、老年看護論、老年看護実践方法論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			⑩ 急性期や重症な状態にある人や家族の心理についてアセスメントし、不安の緩和を図ることができる。	D-4-2)⑩	精神看護支援技術演習、成育看護実習Ⅱ（小児）、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑪ 回復過程及び退院を見通した看護を説明できる。	D-4-2)⑪	精神看護支援技術演習、小児療養看護論、総合実習、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（小児）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-4-3	回復期にある人々に対する看護実践	回復期にある人の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支えQOLを高める看護実践を学ぶ。	① 心身の回復状況のアセスメントや回復状況に応じた看護を説明できる。	D-4-3)①	精神看護支援技術演習、小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② リハビリテーション、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health<ICF>）の概念を理解できる。	D-4-3)②	精神看護論、精神看護支援技術演習、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 回復への動機付けや意欲についてアセスメントできる。	D-4-3)③	精神看護支援技術演習、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 回復への意欲を支え、より主体的な回復過程を遂げるための看護を説明できる。	D-4-3)④	精神看護支援技術演習、小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 回復期にある人を支える家族の状況をアセスメントし、支援できる。	D-4-3)⑤	精神看護支援技術演習、小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 回復期にある人が個の特性に応じた生活を送るために、関係する職種や機関と必要な情報や目標を共有できる。	D-4-3)⑥	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、小児療養看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 生活機能障害（身体、知的、高次機能、精神、発達）についてアセスメントでき、ノーマライゼーションの視点から必要な看護を説明できる。	D-4-3)⑦	精神看護論、在宅看護論、総合実習、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ 回復期にある人が障害に応じた生活を送るために、活用できる社会資源と連携し、就労等の支援について説明できる。	D-4-3)⑧	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、小児療養看護論、慢性期看護論、急性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
D-4-4	慢性期にある人々に対する看護実践	疾病を持ちながら生きる人やその家族の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。	① 慢性疾患の特徴と治療経過について理解できる。	D-4-4)①	小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）
			② 疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフケアの現状と課題をアセスメントできる。	D-4-4)②	小児療養看護論、総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、成育看護実習Ⅱ（小児）
			③ 慢性疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について理解できる。	D-4-4)③	総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、予防看護論
			④ 薬物療法等の治療の効果や副作用について判断できる。	D-4-4)④	総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、予防看護論、成育看護実習Ⅱ（小児）
			⑤ 急性増悪の誘因を理解し、予防的に対応できる。	D-4-4)⑤	総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）
			⑥ 慢性的な痛み等の症状を理解し、対象者の苦痛や不安に配慮できる。	D-4-4)⑥	総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、成育看護実習Ⅱ（小児）
			⑦ 対象者のセルフケアによる自分らしい生活の実現のために必要な社会資源を説明できる。	D-4-4)⑦	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、小児療養看護論、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑧ 疾病が家族の生活や対象者との関係性にどのように影響するかを 考えて支援できる。	D-4-4)⑧	精神看護支援技術演習、総合実習、小児療養看護論、 慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ （慢性期）、予防看護論医療看護実習Ⅱ（精神）、成育看護実 習Ⅱ（小児）
			⑨ 様々な慢性疾患において必要とされる支援の特徴を理解し、病気 に応じて適切な人・機関につなげることができる。	D-4-4)⑨	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ （慢性期）
			⑩ 慢性期にある患者に対する全体的な視点からの緩和ケアについて 説明できる。	D-4-4)⑩	総合実習、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看 護実習Ⅱ（慢性期）

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-4-5	人生の最終段階にある人々に対する看護実践	人生の最終段階にある人が尊厳をもって個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。また、人生の最終段階にある人の家族に対する看護実践を学ぶ。	① 人生の最終段階にある人の身体的変化について説明できる。	D-4-5)①	在宅看護論、総合実習、慢性期看護論
			② 人生の最終段階にある人の価値観や人生観、死生観を引き出し、終末期の過ごし方を考える援助関係の築き方について説明できる。	D-4-5)②	老年看護実践方法論、在宅看護論、総合実習、慢性期看護論
			③ 人生の最終段階にある人が自分らしい人生を送ることができるために関係機関・職種と連携する重要性を理解できる。	D-4-5)③	老年看護実践方法論、在宅看護論、総合実習、慢性期看護論
			④ 人生の最終段階にある人の疼痛のアセスメント及びコントロールの方法について理解し、苦痛緩和のためのトータルケアを説明できる。	D-4-5)④	在宅看護論、総合実習、慢性期看護論
			⑤ 死の受容プロセスと看護の対象となる人や家族の精神的ケアについて説明できる。	D-4-5)⑤	在宅看護論、総合実習、小児療養看護論、こころの健康増進と看護、女性の健康増進と看護、慢性期看護論、家族看護論
			⑥ 人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる。	D-4-5)⑥	老年看護実践方法論、在宅看護論、総合実習、小児療養看護論、慢性期看護論、家族看護論
			⑦ 死後の家族ケア（悲嘆のケア（グリーフケア））について説明できる。	D-4-5)⑦	在宅看護論、総合実習、小児療養看護論、慢性期看護論、女性の健康増進と看護、こころの健康増進と看護、家族看護論
			⑧ 尊厳ある死後のケアの意義について説明できる。	D-4-5)⑧	在宅看護論、総合実習、慢性期看護論、女性の健康増進と看護
D-5	心のケアが必要な人々への看護実践	メンタルヘルスの概念は健康な状態から疾患・障害を抱えた状態の連続線上にある。心の健康をより良く保つためには、ライフサイクルを通じて多様な心のケアが必要とされる。メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見、治療、リハビリ（回復）を当事者の強み（ストレス）を生かしながら支援するために必要な看護実践を学ぶ。	① 心の健康の概念について説明できる。	D-5①	精神看護論
			② ライフサイクル各期における発達課題と心の危機的状況について説明できる。	D-5②	発達心理学、こころの健康増進と看護、精神看護論、公衆衛生看護学概論、小児看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			③ 家庭・学校・職場等におけるメンタルヘルス向上のための支援について説明できる。	D-5③	こころの健康増進と看護、地域看護活動論、小児看護論
			④ 周産期の母親と家族のメンタルヘルスを保ち、子どもの健康な心の発達を促す支援について説明できる。	D-5④	こころの健康増進と看護、地域看護活動論、母性看護論、女性の健康増進と看護、小児看護論
			⑤ 発達障害を早期にアセスメントし、適切な環境を提供する支援について説明できる。	D-5⑤	精神看護支援技術演習、地域看護活動論、小児療養看護論
			⑥ 自殺予防のための本人及び関係者への支援について説明できる。	D-5⑥	精神看護支援技術演習、こころの健康増進と看護、地域看護活動論
			⑦ 依存症を持つ人とその家族への支援について説明できる。	D-5⑦	精神看護支援技術演習、地域看護活動論
			⑧ 精神疾患のリスクを早期にアセスメントし、早期から適切な治療を受けるための支援体制について説明できる。	D-5⑧	精神看護論、精神看護支援技術演習、こころの健康増進と看護、疾病と治療Ⅳ、地域看護活動論
			⑨ 精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践できる。	D-5⑨	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習
			⑩ 精神疾患を持つ人の地域生活支援について、関係者と協働する必要性と方法を説明できる。	D-5⑩	精神看護論、精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、地域看護活動論

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-6 組織における看護の役割	D-6-1 組織における看護活動とケアの質改善	組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理及び改善への取組を学ぶ。	① 組織における看護の役割について説明できる。	D-6-1)①	公衆衛生看護学概論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、医療ケアシステム論
			② 医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。	D-6-1)②	コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、医療ケアシステム論
			③ 組織の中での役割分担の在り方について理解できる。	D-6-1)③	公衆衛生看護学概論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療ケアシステム論
			④ 組織の中での情報管理システムについて理解できる。	D-6-1)④	総合実習、看護情報学
			⑤ 看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる。	D-6-1)⑤	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、医療ケアシステム論
			⑥ 看護管理における費用対効果の重要性について理解できる。	D-6-1)⑥	公衆衛生看護学概論、総合実習、医療ケアシステム論
			⑦ 看護活動をPDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）を用いて改善する意義と方法について理解できる。	D-6-1)⑦	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、医療ケアシステム論
			⑧ 看護活動におけるリーダーシップ、メンバーシップの重要性を説明できる。	D-6-1)⑧	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ、医療ケアシステム論
	D-6-2 リスクマネジメント	医療や看護におけるリスクマネジメントについて理解し、そのために必要な行動を身に付ける。	① 医療におけるリスクについて説明できる。	D-6-2)①	精神看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、治療療養支援技術演習
			② リスクマネジメント、有害事象（転倒・転落等の事故、褥瘡、与薬エラー等）の予防方法について説明できる。	D-6-2)②	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、治療療養支援技術演習
			③ 医療の中で安全文化の形成に向けて、チームとして取り組むことの意義について説明できる。	D-6-2)③	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ、総合実習、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 組織における医療安全対策等、医療機関の取組と看護の活動・役割について説明できる。	D-6-2)④	総合実習、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 医薬品・医療機器の安全管理体制や安全な医療環境を形成する意義について説明できる。	D-6-2)⑤	在宅看護論、総合実習、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）
			⑥ 組織における感染防止対策について理解し、実施できる。	D-6-2)⑥	在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、成育看護実習Ⅱ（母性）
			⑦ 医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる。	D-6-2)⑦	成育看護実習Ⅱ（小児）、在宅看護論、総合実習、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
⑧ インシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの目的を理解し、必要性について説明できる。			D-6-2)⑧	成育看護実習Ⅱ（小児）、在宅看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論	

D 看護実践の基本となる専門基礎知識

看護学を構成する概念である人間、環境、健康、看護の理解を基盤として、課題解決技法等の基本を踏まえて、看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を育成する。健康の段階、発達段階に特徴づけられる対象者のニーズに応じた看護実践能力を修得するとともに、組織における看護職の役割と対象者を中心とした協働の在り方を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
D-6-3 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働	保健・医療・福祉チームにおける連携と協働	保健・医療・福祉チームにおける連携と協働を学ぶ。	① 保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。	D-6-3)①	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 対象者を中心とするチームの構築方法について説明できる。	D-6-3)②	総合実習、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、医療ケアシステム論
			③ チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。	D-6-3)③	総合実習、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、医療ケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。	D-6-3)④	総合実習、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 在宅医療を推進するために、保健・医療・福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。	D-6-3)⑤	総合実習、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児療養看護論、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 継続看護、退院支援・退院調整等、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。	D-6-3)⑥	総合実習、在宅看護論、小児療養看護論、母性看護論、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 他のチーム員と適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる。	D-6-3)⑦	総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、母性看護論、医療ケアシステム論、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実践できる。	D-6-3)⑧	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論、治療看護実習Ⅱ（慢性期）

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
E-1 多様な場の特性に応じた看護	E-1-1 多様な場の特性	看護が提供される多様な場と生活の場の特性を学ぶ。	① 医療機関の種類とその特性について説明できる。	E-1-1①	老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、総合実習、医療ケアシステム、医療看護実習Ⅰ
			② 訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター、子育て世代地域包括支援センター等の在宅ケア機関とその特性について説明できる。	E-1-1②	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ
			③ 介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について説明できる。	E-1-1③	社会福祉・社会保障論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、老年看護論、総合実習、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ
			④ 母子、高齢者、心身・精神障害児・者等を対象とした福祉施設（入所・通所）とその特性について説明できる。	E-1-1④	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ 女性の健康増進と看護
			⑤ 人々が働く産業の場の特性について説明できる。	E-1-1⑤	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ
			⑥ 児童・生徒が学ぶ学校の場の特性について説明できる。	E-1-1⑥	地域看護活動論、学校保健
			⑦ 国や地方自治体等、行政機関の特徴について説明できる。	E-1-1⑦	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、老年看護論、総合実習、コミュニティケアシステム論
			⑧ 暮らしの場（自宅、施設等）や地域の特性について説明できる。	E-1-1⑧	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、老年看護論、総合実習、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅰ
			⑨ 国際保健・医療協力（国際連合（United Nations<UN>）、世界保健機関（World Health Organization<WHO>）、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency<JICA>）、政府開発援助（Official Development Assistance<ODA>）、非政府組織（Non-Governmental Organization<NGO>））について概説できる。	E-1-1⑨	地域看護活動論、国際保健

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	E-1-2 多様な場に応じた看護実践	多様な場に応じた看護実践について学ぶ。	① 医療計画における各機関の役割分担を踏まえた看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2①	老年看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、医療ケアシステム論
			② 自宅、医療機関、在宅ケア機関における看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2②	在宅看護論、老年看護論、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅰ
			③ 介護保険に関連するサービス提供機関における看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2③	在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅱ、コミュニティ看護実習Ⅰ
			④ 母子、高齢者、心身・精神障害児・者を対象とした福祉施設（入所・通所）における看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2④	精神看護支援技術演習、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、在宅看護論、老年看護論、コミュニティ看護実習Ⅰ、母性看護論
			⑤ 産業保健における看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2⑤	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、総合実習
			⑥ 学校保健における看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2⑥	地域看護活動論、学校保健
			⑦ 行政機関における保健活動について理解できる。	E-1-2⑦	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、総合実習
			⑧ 暮らしの場（在宅、施設等）や地域特性の違いによる看護の在り方と方法について理解できる。	E-1-2⑧	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、老年看護論
			⑨ 在日外国人の文化的背景を考慮した看護を理解できる。	E-1-2⑨	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、女性の健康増進と看護、母性看護論、国際保健
			⑩ 諸外国の看護・保健ニーズについて理解し、諸外国における支援の在り方や国際協力について理解できる。	E-1-2⑩	国際保健、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
E-2 地域包括ケアにおける看護実践	E-2-1 地域包括ケアと看護	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で暮らしを続けることができるようにするための、医療・看護・介護・予防・住まい・生活・子育て支援のためのサービス提供機関について学ぶ。	① 地域包括ケアの概念について理解できる。	E-2-1①	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティケアシステム論、母性看護論
			② 地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助の必要性について理解できる。	E-2-1②	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティケアシステム論、母性看護論
			③ 様々なライフサイクル、健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる。	E-2-1③	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、成育看護実習Ⅰ、老年看護論、コミュニティケアシステム論、小児看護論
			④ 地域包括ケアに関連するケアサービス提供機関を列挙し、説明できる。	E-2-1④	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅱ
			⑤ 地域包括ケアにおける多機関・多職種連携・協働について理解できる。	E-2-1⑤	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅱ、小児看護論、母性看護論
			⑥ 地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるかを理解できる。	E-2-1⑥	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論
			⑦ セルフケア支援について理解できる。	E-2-1⑦	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、慢性期看護論、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ ノーマライゼーションの支援について理解できる。	E-2-1⑧	公衆衛生看護学概論、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習
			⑨ 複数の対象者のニーズと、その地域のニーズを理解できる。	E-2-1⑨	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、老年看護論、コミュニティケアシステム論、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
E-2-2	地域包括ケアにおける看護の役割	保健・医療・福祉のケアニーズをもつ人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようにするために、地域包括ケアにおいて多様な専門職及び地域の人々と連携・協働し、看護の役割を発揮する能力を身に付ける。	① 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の健康状態や特性、ケアニーズについて、人々の価値観、地域の特徴、文化を踏まえ、アセスメントできる。	E-2-2①	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、予防看護論
			② 地域に暮らす人や、在宅療養者の自己決定（意思決定）への支援について説明できる。	E-2-2②	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、予防看護論
			③ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の強みや主体性を引き出し、セルフケア力の発揮を促す支援について説明できる。	E-2-2③	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習、予防看護論
			④ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族に必要な社会資源を理解できる。	E-2-2④	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習
			⑤ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族への支援計画案における看護の役割を説明できる。	E-2-2⑤	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習
			⑥ 地域における多職種会議の方法を理解できる。	E-2-2⑥	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、総合実習
			⑦ 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族のニーズに対応するために、必要な新たなケアを創造する必要性が理解できる。	E-2-2⑦	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、在宅看護論、小児療養看護論、総合実習

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
E-3 災害時の看護実践	E-3-1 自然災害、人為的災害（放射線災害を含む）等、災害時の健康危機に備えた看護の理解	災害発生に備えた心構えと看護の方法を学び、平常時から地域全体で備えるとともに、被災時に被災地域や被災者に必要な看護に必要な知識を学ぶ。	① 災害の種類や災害サイクル、地域防災計画、支援体制について理解できる。	E-3-1①	災害看護
			② 災害時の医療救護活動のフェーズ（超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期）と各期の看護について理解できる。	E-3-1②	災害看護、生活援助論、急性期看護論
			③ 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。	E-3-1③	災害看護
			④ 災害時の医療救護活動の基本であるCSCATTT（Command and Control,Safety,Communication,Assessment,Triage,Treatment,Transport）について理解できる。	E-3-1④	災害看護
			⑤ 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team<DMAT>）、災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team<DPAT>）、日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Assistance Team<JMAT>）、災害時健康危機管理支援チーム（Disaster Health Emergency Assistance Team<DHEAT>）、災害援助対応チーム（Disaster Acute Rehabilitation Team<DART>）、日本栄養士会災害支援チーム（The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team<JDA-DAT>））と看護の役割を理解する。	E-3-1⑤	災害看護
	E-3-2 災害時の安全なケア環境の提供の理解	災害時の安全なケア環境の提供について理解する。	① 災害看護活動の場（救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における食事、排せつ、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる。	E-3-2①	災害看護、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、生活援助論
			② 要配慮者、避難行動要支援者への看護について理解できる。	E-3-2②	地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論、災害看護、女性の健康増進と看護、母性看護論
			③ 被災地域の人々、多職種との連携・協働による看護の必要性や方法を理解できる。	E-3-2③	災害看護、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、在宅看護論
			④ 災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々との連携・協働の上、安全なケア環境提供を継続する必要性を理解できる。	E-3-2④	災害看護、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ
			⑤ 二次災害の発生と危険について理解できる。	E-3-2⑤	災害看護、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ

E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識

看護を提供する場は医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関等多様となっている。また、グローバル化により、在日外国人に対してや諸外国での保健・医療活動等、国境を超えた看護実践の機会も増えている。これら看護が求められる多様な場を理解するとともに、看護実践を行うために必要な専門知識を身に付け、対象者の特性を加味した上で場の複雑性を認識しながら、対象者のニーズに応えるための看護実践を理解する。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑥ 被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解できる。	E-3-2⑥	災害看護、地域看護活動論、公衆衛生看護活動論Ⅰ

F 臨地実習

臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法の一つである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
F-1 臨地実習における学修	F-1-1 臨地実習における学修	「A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力」（以下、再掲）を常に意識しながら、臨地実習を行う。	① プロフェッショナリズム	F-1-1①	課題探究、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 看護学の知識と看護実践	F-1-1②	課題探究、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 根拠に基づいた課題対応能力	F-1-1③	課題探究、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ コミュニケーション能力	F-1-1④	コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 保健・医療・福祉における協働	F-1-1⑤	コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ ケアの質と安全の管理	F-1-1⑥	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑦ 社会から求められる看護の役割の拡大	F-1-1⑦	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ 科学的探究	F-1-1⑧	総合実習、課題探究、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑨ 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢	F-1-1⑨	総合実習、課題探究、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	F-1-2 臨地実習における学修の在り方（特徴）	人々の治療や生活の場とそれらを支える社会資源の実際を知り、人々と関係性を築きながら、看護学の知識・技術・態度を統合し、実践へ適用する能力を身に付ける。	① 学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践できる。	F-1-2①	課題探究、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

F 臨地実習

臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法の一つである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			② 多様な場で展開される、人々の多様な生活（B・D・E 参照）の実際を理解できる。	F-1-2②	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 多様な社会資源、サービス、制度（B・E 参照）の実際を見ることで看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる。	F-1-2③	コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ 実習の積み重ねを通して、必要とされる看護が場や看護の受け手により異なることを理解し、看護者の役割を創造的に考察できる。	F-1-2④	総合実習、課題探究、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 実施した看護の意味や課題を、看護の受け手を中心とする視点や倫理的観点で振り返ることができる。	F-1-2⑤	課題探究、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる。	F-1-2⑥	総合実習、課題探究、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）、成育看護実習Ⅱ（母性・小児）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
チームの一員としてケアに参画することを通じて、多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対応するための基礎的能力を育成するとともに、チームの一員として活動できる態度を養う。					
F-2					
ケアへの参画	F-2-1 看護過程に基づくケアの実践	多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対して適切なケアを提供するための基礎的能力を身に付ける。また、看護過程におけるアセスメントの重要性と看護過程が循環する一連のプロセスであることを学ぶ。	① ケアの受け手のニーズをアセスメントできる。	F-2-1①	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）
			② 必要な看護を、科学的根拠に基づき計画できる。	F-2-1②	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にできる。	F-2-1③	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ B～E までの知識・技術を用いてケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施できる。	F-2-1④	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ 学生自身が観察・実施した看護の結果を、適切な相手に報告・連絡・相談できる。	F-2-1⑤	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑥ 学生自身が観察・実施した看護を的確に記録できる。	F-2-1⑥	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

F 臨地実習

臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法の一つである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
			⑦ ケアの受け手に提供された看護を評価できる。	F-2-1⑦	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑧ 看護過程の全ての段階において、主体であるケアの受け手の意思を尊重できる。	F-2-1⑧	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）

F 臨地実習

臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する教育方法の一つである。看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
	F-2-2 安全なケア環境の整備	多様なケアの現場で安全なケア環境を整備することの重要性を認識し、予防行動を遂行できる。また、インシデント（ヒヤリ・ハット）を起こした場合は、報告の必要性と重要性を理解し、適切に報告できる。	① 転倒・転落、褥瘡等の有害事象の予防策を計画し、実施できる。	F-2-2①	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			② 感染防止対策を適切に実施できる。	F-2-2②	医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			③ 実習におけるインシデント（ヒヤリ・ハット）報告の仕組みを説明できる。	F-2-2③	医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			④ インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、迅速に報告・連絡・相談ができる。	F-2-2④	医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
			⑤ インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、その原因と再発防止策を説明できる。	F-2-2⑤	医療看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、 医療看護実習Ⅱ（急性期）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）
	F-2-3 チームの一員としてのケア参画	チームの一員として、チームメンバーの指導を受けながらケアに参画すること、また実習グループメンバーによる協働学習を通じて、多様な場で多様なニーズを持つ人々に対応するための基礎的能力を育成する。また、チームの一員として活動できる態度を養う。	① ケアを提供するチームの目標及びメンバー各々の役割を説明できる。	F-2-3①	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）
			② チームにおける自身の役割を説明できる。	F-2-3②	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）
			③ チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実施及び報告・連絡・相談ができる。	F-2-3③	医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、コミュニ ティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、医療看護 実習Ⅱ（急性期）
			④ カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聴くことができる。	F-2-3④	コミュニティ看護実習Ⅰ、医療看護実習Ⅰ、 医療看護実習Ⅱ（精神）、総合実習、 成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）、コミュニ ティ看護実習Ⅱ（老年）、医療看護実習Ⅱ（慢性期）、医療看護 実習Ⅱ（急性期）
			⑤ ケアの受け手の権利擁護に関する問題提起や相談ができる。	F-2-3⑤	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）
		⑥ チームを作るための基本的姿勢や方法を説明できる。	F-2-3⑥	総合実習、成育看護実習Ⅱ（小児）、成育看護実習Ⅱ（母性）	

G 看護学研究

看護学研究の成果は、看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。また、社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。そのため、看護学の体系を構築する基盤となり、看護学の専門性の発展に貢献する。また、看護学研究の実践を通して、より良い看護を探究する課題解決の能力を向上させる。学士課程においては、将来的な種々の研究活動の基盤を作ることに焦点がある。

項目		ねらい	学修目標	コード	主たる授業科目名
中項目	小項目				
G-1 一 護 研 究 に お け る 倫 理		将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究における倫理の必要性と具体的な配慮の例を学ぶ。	① 看護研究における倫理の必要性について説明できる。	G-1①	課題探究、疫学、課題探求（合同講義1）
			② 看護研究における倫理的配慮の具体的な例とその理由が理解できる。	G-1②	課題探究、課題探求（合同講義1）
			③ 支援を受けながら、看護研究における倫理的配慮に関する計画を立案できる。	G-1③	課題探究、課題探求（合同講義1）
			④ 研究者倫理（対象者の人権擁護と研究不正の回避に必要な知識を含む。）を理解できる。	G-1④	課題探究、課題探求（合同講義1）
G-2 看 護 研 究 を 通 し た 看 護 実 践 の 探 究	G-2-1 看護実践の探究	看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶ。	① 看護実践の探究のために研究が必要であることを理解できる。	G-2-1①	課題探究
			② 看護実践の探究に向けて、看護現象について論理的・批判的に思考できる。	G-2-1②	課題探究、予防看護論
	G-2-2 研究成果の活用の方法	研究成果を解釈し、活用していく方法を学ぶ。	① 情報リテラシー、統計リテラシーを獲得できる。	G-2-2①	課題探究、基礎Ⅰ、疫学、保健統計学
			② 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。	G-2-2②	課題探究
			③ 基本的な研究方法の知識を持ち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。	G-2-2③	課題探究
			④ 研究成果には適用可能範囲や限界があることを理解した上で、支援を受けながら、成果を理解できる。	G-2-2④	課題探究
	G-2-3 研究活動の実践	将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究の方法を学ぶ。	① 研究課題の抽出、研究計画の立案、実施の一連の過程を理解できる。	G-2-3①	課題探究
			② 文献研究、事例研究、実験・調査研究等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。	G-2-3②	課題探究

司書資格科目

*教育内容ごとの具体的な教育目標

平成21年文部科学省令第21号
「図書館法施行規則の一部を改正する省令」
の「指定基準」（別紙1）による

1. 基礎科目

生涯学習概論 生涯学習概論Ⅱ	図書館概論	図書館制度・経営論	図書館情報技術論
生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員役割、学習活動への支援等の基本を解説する。	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、関係機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。
各2単位	2単位	2単位	2単位
1) 生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際	1) 図書館の現状と動向	1) 図書館法（逐条解説）	1) コンピュータとネットワークの基礎
2) 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携	2) 図書館の構成要素と機能	2) 他館種の図書館に関する法律等（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法）	2) 情報技術と社会
3) 生涯学習振興施策の立案と推進	3) 図書館の社会的意義（ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む）	3) 図書館サービス関連法規（子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等）	3) 図書館における情報技術活用の現状
4) 教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質	4) 知的自由と図書館（図書館の自由に関する宣言等）	4) 図書館政策（国、地方公共団体）	4) 図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報の発信を含む）
5) 社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携	5) 図書館の歴史	5) 公共機関・施設の経営方法（マーケティング、危機管理を含む）	5) データベースの仕組み
6) 自治体の行財政制度と教育関連法規	6) 公立図書館の成立と展開	6) 図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携）	6) 検索エンジンの仕組み
7) 社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供と学習相談、評価を含む）	7) 館種別図書館と利用者のニーズ	7) 図書館の施設・設備	7) 電子資料の管理技術
8) 学習への支援と学習成果の評価と活用	8) 図書館職員の役割と資格	8) 図書館のサービス計画と予算の確保	8) コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理を含む）
9) 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携	9) 図書館の類縁機関・関係団体（文書館を含む）	9) 図書館業務・サービスの調査と評価	9) デジタルアーカイブ
10) 社会教育指導者の役割	10) 図書館の課題と展望	10) 図書館の管理形態の多様化	10) 最新の情報技術と図書館

2. 図書館サービスに関する科目

図書館サービス概論	情報サービス論	児童サービス論	情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ
図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。	児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。	情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。
2単位	2単位	2単位	各1単位
1) 図書館サービスの考え方と構造	1) 情報社会と図書館の情報サービス	1) 発達と学習における読書の役割	1) 情報サービスの設計（レファレンス）
2) 図書館サービスの変遷（図書館法制定以降）	2) 図書館における情報サービスの意義と種類（レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等）	2) 児童サービスの意義（理念と歴史を含む）	2) レファレンスコレクションの整備
3) 資料提供サービスの基本（利用案内・貸出・予約サービスの流れと相互の関係）	3) レファレンスサービスの理論（利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等）	3) 児童資料（絵本）	3) レファレンスインタビューの技法と実際
4) 情報提供の形態と機能（レファレンスサービス、情報発信、講座・セミナー）	4) レファレンスサービスの実際（レファレンスサービスの体制づくり・実施・普及、現状と問題点等）	4) 児童資料（物語と伝承文学、知識の本）	4) 情報検索の技法と実際（各種データベースの検索演習や電子ジャーナルの活用）
5) 図書館サービスの連携・協力（図書館ネットワークの意義と形態）	5) 情報検索サービスの理論と方法	5) 児童サービスの実際（資料の選択と提供、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等）	5) 質問に対する検索と回答（質問の分析と情報源の選択を含む）
6) 課題解決支援サービス	6) 各種情報源の特質と利用法	6) 乳幼児サービス（ブックスタート等）と資料	6) 発信型情報サービスの実際（パスファインダーの作成を含む）
7) 障害者サービス	7) 各種情報源の解説と評価（参考図書、ネットワーク情報資源等を含む）	7) ヤングアダルトサービスと資料	7) 情報サービスの評価（レファレンス事例の作成・評価を含む）
8) 高齢者サービス、多文化サービス	8) 各種情報源の組織化（二次資料の作成、情報発信を含む）	8) 学習支援としての児童サービス（図書館活用指導、レファレンスサービス）	
9) 図書館サービスと著作権	9) 発信型情報サービスの意義と方法	9) 学校、学校図書館の活動（公立図書館との相違点を含む）	
10) 利用者に対する接遇・コミュニケーション、広報	10) 図書館利用教育（情報リテラシーの育成を含む）	10) 学校、家庭、地域との連携・協力	

3. 図書館情報資源に関する科目

図書館情報資源概論	情報資源組織論	情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。	多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
2単位	2単位	各1単位
1) 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(図書・雑誌・新聞、主要な一次・二次資料、資料の歴史を含む)	1) 情報資源組織化の意義と理論	1) 書誌データ作成の実際
2) 電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	2) 書誌コントロールと標準化	2) 主題分析と分類作業の実際
3) 地域資料、行政資料(政府刊行物)、灰色文献	3) 書誌記述法(主要な書誌記述規則)	3) 主題分析と統制語彙適用の実際
4) 情報資源の生産(出版)と流通(主な出版者に関する基本的知識を含む)	4) 主題分析の意義と考え方	4) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際
5) 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基本的知識を含む)	5) 主題分析と分類法(主要な分類法)	5) 書誌データ管理・検索システムの構築
6) コレクション形成の理論(資料の選択・収集・評価)	6) 主題分析と索引法(主要な統制語彙)	6) ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
7) コレクション形成の方法(選択ツールの利用、選定・評価)	7) 書誌情報の作成と流通(MARC、書誌ユーティリティ)	
8) 人文・社会科学分野の情報資源とその特性	8) 書誌情報の提供(OPACの管理と運用)	
9) 科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	9) ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ	
10) 資料の受入・除籍・保存・管理(装備・補修・排架・展示・点検等を含む)	10) 多様な情報資源の組織化(地域資料、行政資料等)	

4. 選択科目(2科目以上選択)

図書館基礎特論	図書館総合演習
必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、基礎科目に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。	必修の各科目で学んだ内容を掘り下げて学習し、理解を深める観点から、少人数を対象に、研究指導や論文指導あるいは見学会・講演会等を組み合わせた総合的な演習を行う。
2単位	1単位
図書館サービス特論	図書館実習
必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。	図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。
2単位	1単位
図書・図書館史	
必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産(印刷等含む)、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について解説する。	
2単位	

博物館学芸員資格科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成21年文部科学省令第22号
「博物館法施行規則の一部を改正する省令」
の「指定基準」(別紙2)による

学芸員養成科目

No.	科目名・単位数	ね ら い	内 容
1	生涯学習概論 [2単位]	生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育論・生涯学習論の生成と展開 ・学習機会の多様化・拡大化 ・生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 ・生涯学習振興施策の展開とその推進 ○ 生涯学習の意義と特性 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原理と生涯学習の意義・特質 ・我が国及び諸外国における生涯学習の発展と特質 ○ 生涯学習・社会教育行政の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育行政の意義と役割 ・社会教育行政・生涯学習振興行政・一般行政の関連（関係法令と行政組織） ・生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 ○ 生涯学習の内容・方法と指導者 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法・形態（成人の学習、生涯発達と教育の関連、学習情報の提供と学習相談を含む） ・学習への支援と学習成果の評価と活用 ・生涯学習・社会教育指導者の役割
2	博物館概論 [2単位]	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館学の目的・方法・構成 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館学の目的・方法・構成 ・博物館学史 ○ 博物館の定義 <ul style="list-style-type: none"> ・定義（類縁機関との違いを含む） ・種類（館種、設置者別、法的区分等） ・目的 ・機能 ○ 博物館の歴史と現状 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国及び諸外国の博物館の歴史 ・我が国及び諸外国の博物館の現状 ・学芸員の役割（定義、役割、実態） ・博物館関係法令
3	博物館経営論 [2単位]	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館の経営基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムマネジメントとは ・行財政制度 ・財務 ・施設・設備（ユニバーサル化を含む） ・組織と職員 ○ 博物館の経営 <ul style="list-style-type: none"> ・使命と計画と評価 ・博物館倫理（行動規範） ・博物館の危機管理 ・利用者との関係（広報・マーケティング、ミュージアムショップ等） ○ 博物館における連携 <ul style="list-style-type: none"> ・市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等） ・博物館ネットワーク・他館との連携 ・他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携 ・地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携）

No.	科目名・単位数	ね ら い	内 容
4	博物館資料論 [2単位]	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館における調査研究活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究活動の意義と内容（博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究、博物館に関する研究等） ・ 調査研究成果の還元 ○ 博物館資料の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の意義 ・ 資料の種類 ・ 資料化の過程 ○ 博物館資料の収集・整理・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収集理念と方法（情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等） ・ 資料の分類・整理（目録作成を含む） ・ 資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む）
5	資料保存論 [2単位]	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館における資料保存の意義 ○ 資料の保全（育成を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の状態調査・現状把握 ・ 資料の修復・修理 ・ 資料の梱包と輸送 ○ 博物館資料の保存環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等） ・ 生物被害とIPM(総合的有害生物管理) ・ 災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等） ・ 伝統的保存方法 ・ 収蔵、展示等の保存環境 ○ 環境保護と博物館の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の保存と活用（エコミュージアム等） ・ 文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む） ・ 自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む）
6	博物館展示論 [2単位]	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館展示の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションとしての展示 ・ 調査研究の成果の提示 ・ 展示と展示論の歴史 ・ 展示の政治性と社会性 ○ 博物館展示の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示の諸形態 ・ 展示の製作（企画、デザイン、技術、施工等） ・ 関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等） ・ 展示の評価と改善・更新 ○ 展示の解説活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解説文・解説パネル ・ 人による解説 ・ 機器による解説 ・ 展示解説書（展示図録、パンフレット等）

No.	科目名・単位数	ね ら い	内 容
7	博物館教育論 [2単位]	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの意義 ○ 博物館教育の意義と理念 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての博物館教育（博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義） ・博物館教育の意義 <ul style="list-style-type: none"> （生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等） ・博物館教育の方針と評価 ○ 博物館の利用と学び <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の利用実態と利用者の博物館体験 ・博物館における学びの特性 ○ 博物館教育の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館教育活動の手法（館内、館外） ・博物館教育活動の企画と実施 ・博物館と学校教育（博物館と学習指導要領を含む）
8	博物館情報・メディア論 [2単位]	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館における情報・メディアの意義 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の意義（視聴覚メディアの理論と歴史を含む） ・メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館） ・ICT社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等） ・情報教育の意義と重要性 ○ 博物館情報・メディアの理論 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等） ・資料のドキュメンテーションとデータベース化 ・デジタルアーカイブの現状と課題 ・映像理論、博物館メディアの役割と学習活用 ○ 博物館における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・情報管理と情報公開 ・情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等） ・インターネットの活用 ○ 博物館と知的財産 <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権（著作権等） ・個人情報（肖像権等） ・権利処理の方法
9	博物館実習 [3単位]	見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学内実習 <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習（多様な館種の実態理解） ・実務実習（資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得） ・事前・事後指導（実習全体の指導、館園実習に関する指導） ○ 館園実習（博物館における実務体験）
合 計 9科目 19単位			

保育士指定科目

*教科目の教授内容

○平成 31 年度以前入学生

平成 27 年 3 月 31 日 雇児発 0331 号 29 号

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」別添 1 による

○平成 31 年度入学生

平成 30 年 4 月 27 日 子発 0427 号 3 号

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」別添 1 による

<科目名>

保育原理(講義・2単位)

<目標>

- 1 保育の意義について理解する。
- 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
- 3 保育の内容と方法の基本について理解する。
- 4 保育の思想と歴史の変遷について理解する。
- 5 保育の現状と課題について考察する。

<内容>

- 1 保育の意義
 - (1) 保育の理念と概念
 - (2) 児童の最善の利益を考慮した保育
 - (3) 保護者との協働
 - (4) 保育の社会的意義
 - (5) 保育所保育と家庭的保育
 - (6) 保育所保育指針の制度的位置づけ
- 2 保育所保育指針における保育の基本
 - (1) 養護と教育の一体性
 - (2) 環境を通して行う保育
 - (3) 発達過程に応じた保育
 - (4) 保護者との緊密な連携
 - (5) 倫理観に裏付けられた保育士の専門性
- 3 保育の目標と方法
 - (1) 現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う
 - (2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育
 - (3) 保育における個と集団への配慮
 - (4) 計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環
- 4 保育の思想と歴史の変遷
 - (1) 諸外国の保育の思想と歴史
 - (2) 日本の保育の思想と歴史
- 5 保育の現状と課題
 - (1) 諸外国の保育の現状と課題
 - (2) 日本の保育の現状と課題

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

教育原理(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する。
- 2 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
- 3 教育の制度について理解する。
- 4 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。
- 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

< 内容 >

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性
 - (1) 教育の意義
 - (2) 教育の目的
 - (3) 教育と児童福祉の関連性
 - (4) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性
- 2 教育の思想と歴史の変遷
 - (1) 諸外国の教育思想と歴史
 - (2) 日本の教育思想と歴史
 - (3) 児童観と教育観の変遷
- 3 教育の制度
 - (1) 教育制度の基礎
 - (2) 教育法規・教育行政の基礎
 - (3) 諸外国の教育制度
- 4 教育の実践
 - (1) 教育実践の基礎理論—内容、方法、計画と評価—
 - (2) 教育実践の多様な取り組み
- 5 生涯学習社会における教育の現状と課題
 - (1) 生涯学習社会と教育
 - (2) 現代の教育課題

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

児童家庭福祉(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
- 3 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
- 5 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

< 内容 >

- 1 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷
 - (1) 児童家庭福祉の理念と概念
 - (2) 児童家庭福祉の歴史の変遷
 - (3) 現代社会と児童家庭福祉
- 2 児童家庭福祉と保育
 - (1) 児童家庭福祉の一分野としての保育
 - (2) 児童の人権擁護と児童家庭福祉
- 3 児童家庭福祉の制度と実施体系
 - (1) 児童家庭福祉の制度と法体系
 - (2) 児童家庭福祉行財政と実施機関
 - (3) 児童福祉施設等
 - (4) 児童家庭福祉の専門職・実施者
- 4 児童家庭福祉の現状と課題
 - (1) 少子化と子育て支援サービス
 - (2) 母子保健と児童の健全育成
 - (3) 多様な保育ニーズへの対応
 - (4) 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス
 - (5) 社会的養護
 - (6) 障害のある児童への対応
 - (7) 少年非行等への対応
- 5 児童家庭福祉の動向と展望
 - (1) 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進
 - (2) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
 - (3) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

社会福祉(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
- 3 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
- 5 社会福祉の動向と課題について理解する。

< 内容 >

- 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の歴史の変遷
- 2 社会福祉と児童家庭福祉
 - (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
 - (2) 児童の人権擁護と社会福祉
 - (3) 家庭支援と社会福祉
- 3 社会福祉の制度と実施体系
 - (1) 社会福祉の制度と法体系
 - (2) 社会福祉行財政と実施機関
 - (3) 社会福祉施設等
 - (4) 社会福祉の専門職・実施者
 - (5) 社会保障及び関連制度の概要
- 4 社会福祉における相談援助
 - (1) 相談援助の意義と原則
 - (2) 相談援助の方法と技術
- 5 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
 - (1) 情報提供と第三者評価
 - (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
- 6 社会福祉の動向と課題
 - (1) 少子高齢化社会への対応
 - (2) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (3) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
 - (4) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

相談援助(演習・1単位)

< 目標 >

- 1 相談援助の概要について理解する。
- 2 相談援助の方法と技術について理解する。
- 3 相談援助の具体的展開について理解する。
- 4 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

< 内容 >

- 1 相談援助の概要
 - (1) 相談援助の理論
 - (2) 相談援助の意義
 - (3) 相談援助の機能
 - (4) 相談援助とソーシャルワーク
 - (5) 保育とソーシャルワーク
- 2 相談援助の方法と技術
 - (1) 相談援助の対象
 - (2) 相談援助の過程
 - (3) 相談援助の技術・アプローチ
- 3 相談援助の具体的展開
 - (1) 計画・記録・評価
 - (2) 関係機関との協働
 - (3) 多様な専門職との連携
 - (4) 社会資源の活用、調整、開発
- 4 事例分析
 - (1) 虐待の予防と対応等の事例分析
 - (2) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析
 - (3) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

社会的養護(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
- 2 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
- 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- 4 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
- 5 社会的養護の現状と課題について理解する。

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷
 - (1) 社会的養護の理念と概念
 - (2) 社会的養護の歴史の変遷
- 2 社会的養護と児童家庭福祉
 - (1) 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - (2) 児童の権利擁護と社会的養護
- 3 社会的養護の制度と実施体系
 - (1) 社会的養護の制度と法体系
 - (2) 社会的養護の仕組みと実施体系
 - (3) 家庭的養護と施設養護
 - (4) 社会的養護の専門職・実施者
- 4 施設養護の実際
 - (1) 施設養護の基本原則
 - (2) 施設養護の実際—日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等—
 - (3) 施設養護とソーシャルワーク
- 5 社会的養護の現状と課題
 - (1) 施設等の運営管理
 - (2) 倫理の確立
 - (3) 被措置児童等の虐待防止
 - (4) 社会的養護と地域福祉

【保育の本質・目的に関する科目】

< 科目名 >

保育者論(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 保育者の役割と倫理について理解する。
- 2 保育士の制度的な位置づけを理解する。
- 3 保育士の専門性について考察し、理解する。
- 4 保育者の協働について理解する。
- 5 保育者の専門職的成長について理解する。

< 内容 >

- 1 保育者の役割と倫理
 - (1) 役割
 - (2) 倫理
- 2 保育士の制度的位置づけ
 - (1) 資格
 - (2) 要件
 - (3) 責務
- 3 保育士の専門性
 - (1) 養護と教育
 - (2) 保育士の資質・能力
 - (3) 知識・技術及び判断
 - (4) 保育の省察
 - (5) 保育課程による保育の展開と自己評価
- 4 保育者の協働
 - (1) 保育と保護者支援にかかわる協働
 - (2) 専門職間及び専門機関との連携
 - (3) 保護者及び地域社会との協働
 - (4) 家庭的保育者等との連携
- 5 保育者の専門職的成長
 - (1) 専門性の発達
 - (2) 生涯発達とキャリア形成

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名>

保育の心理学 I (講義・2単位)

<目標>

- 1 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。
- 2 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
- 3 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。
- 4 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。

<内容>

- 1 保育と心理学
 - (1) 子どもの発達を理解することの意義
 - (2) 保育実践の評価と心理学
 - (3) 発達観、子ども観と保育観
- 2 子どもの発達理解
 - (1) 子どもの発達と環境
 - (2) 感情の発達と自我
 - (3) 身体的機能と運動機能の発達
 - (4) 知覚と認知の発達
 - (5) 言葉の発達と社会性
- 3 人との相互的にかかわりと子どもの発達
 - (1) 基本的信頼感の獲得
 - (2) 他者とのかかわり
 - (3) 社会的相互作用
- 4 生涯発達と初期経験の重要性
 - (1) 生涯発達と発達援助
 - (2) 胎児期及び新生児期の発達
 - (3) 乳幼児期の発達
 - (4) 学童期から青年期の発達
 - (5) 成人期、老年期の発達

【保育の対象の理解に関する科目】

< 科目名 >

保育の心理学Ⅱ（演習・1単位）

< 目標 >

- 1 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
- 2 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
- 3 保育における発達援助について学ぶ。

< 内容 >

- 1 子どもの発達と保育実践
 - (1) 子ども理解における発達の把握
 - (2) 個人差や発達過程に応じた保育
 - (3) 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
 - (4) 環境としての保育者と子どもの発達
 - (5) 子ども相互のかかわりと関係作り
 - (6) 自己主張と自己統制
 - (7) 子ども集団と保育の環境
- 2 生活や遊びを通じた学びの過程
 - (1) 子どもの生活と学び
 - (2) 子どもの遊びと学び
 - (3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
- 3 保育における発達援助
 - (1) 基本的生活習慣の獲得と発達援助
 - (2) 自己の主体性の形成と発達援助
 - (3) 発達の課題に応じた援助やかかわり
 - (4) 発達の連続性と就学への支援
 - (5) 発達援助における協働
 - (6) 現代社会における子どもの発達と保育の課題

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名>

子どもの保健 I (講義・4単位)

<目標>

- 1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
- 3 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4 子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

<内容>

- 1 子どもの健康と保健の意義
 - (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 地域における保健活動と児童虐待防止
- 2 子どもの発育・発達と保健
 - (1) 生物としてのヒトの成り立ち
 - (2) 身体発育と保健
 - (3) 生理機能の発達と保健
 - (4) 運動機能の発達と保健
 - (5) 精神機能の発達と保健
- 3 子どもの疾病と保育
 - (1) 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴
 - (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応
- 4 子どもの精神保健
 - (1) 子どもの生活環境と精神保健
 - (2) 子どもの心の健康とその課題
- 5 環境及び衛生管理並びに安全管理
 - (1) 保育環境整備と保健
 - (2) 保育現場における衛生管理
 - (3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
- 6 健康及び安全の実施体制
 - (1) 職員間の連携と組織的取組
 - (2) 母子保健対策と保育
 - (3) 家庭・専門機関・地域との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

< 科目名 >

子どもの保健Ⅱ(演習・1単位)

< 目標 >

- 1 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。
- 2 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
- 3 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
- 4 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。
- 5 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

< 内容 >

- 1 保健活動の計画及び評価
 - (1) 保健計画の作成と活用
 - (2) 保健活動の記録と自己評価
 - (3) 子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
- 2 子どもの保健と環境
 - (1) 保健における養護と教育の一体性
 - (2) 子どもの健康増進と保育の環境
 - (3) 子どもの生活習慣と心身の健康
 - (4) 子どもの発達援助と保健活動
- 3 子どもの疾病と適切な対応
 - (1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応
 - (2) 感染症の予防と対策
 - (3) 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)
 - (4) 乳児への適切な対応
 - (5) 障害のある子どもへの適切な対応
- 4 事故防止及び健康安全管理
 - (1) 事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組
 - (2) 救急処置及び救急蘇生法の習得
 - (3) 保育における看護と応急処置
 - (4) 災害への備えと危機管理
- 5 心とからだの健康問題と地域保健活動
 - (1) 子どもの養育環境と心の健康問題
 - (2) 心とからだの健康づくりと地域保健活動

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名>

子どもの食と栄養(演習・2単位)

<目標>

- 1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
- 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 3 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- 5 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

<内容>

- 1 子どもの健康と食生活の意義
 - (1) 子どもの心身の健康と食生活
 - (2) 子どもの食生活の現状と課題
- 2 栄養に関する基本的知識
 - (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
 - (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
- 3 子どもの発育・発達と食生活
 - (1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
 - (2) 幼児期の心身の発達と食生活
 - (3) 学童期の心身の発達と食生活
 - (4) 生涯発達と食生活
- 4 食育の基本と内容
 - (1) 食育における養護と教育の一体性
 - (2) 食育の内容と計画及び評価
 - (3) 食育のための環境
 - (4) 地域の関係機関や職員間の連携
 - (5) 食生活指導及び食を通した保護者への支援
- 5 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - (1) 家庭における食事と栄養
 - (2) 児童福祉施設における食事と栄養
- 6 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
 - (1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
 - (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
 - (3) 障害のある子どもへの対応

【保育の対象の理解に関する科目】

< 科目名 >

家庭支援論(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 家庭の意義とその機能について理解する。
- 2 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。
- 3 子育て家庭の支援体制について理解する。
- 4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

< 内容 >

- 1 家庭支援の意義と役割
 - (1) 家庭の意義と機能
 - (2) 家庭支援の必要性
 - (3) 保育士等が行う家庭支援の原理
- 2 家庭生活を取り巻く社会的状況
 - (1) 現代の家庭における人間関係
 - (2) 地域社会の変容と家庭支援
 - (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス
- 3 子育て家庭の支援体制
 - (1) 子育て家庭の福祉を因るための社会資源
 - (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 4 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子育て支援サービスの概要
 - (2) 保育所入所児童の家庭への支援
 - (3) 地域の子育て家庭への支援
 - (4) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - (5) 子育て支援における関係機関との連携
 - (6) 子育て支援サービスの課題

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

保育課程論(講義・2単位)

< 目標 >

- 1 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
- 2 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
- 3 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

< 内容 >

- 1 保育の計画と評価の基本
 - (1) カリキュラムの基礎理論
 - (2) 保育所における保育の計画と評価の意義
 - (3) 保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
 - (4) 計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上
- 2 保育所における保育の計画
 - (1) 保育所保育指針と幼稚園教育要領
 - (2) 保育課程と指導計画
 - (3) 保育課程の編成
 - (4) 指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項
- 3 保育の計画の作成と展開
 - (1) 保育課程の編成と展開
 - (2) 指導計画の実際の作成と展開
- 4 保育所における保育の評価
 - (1) 保育の省察及び記録
 - (2) 保育士及び保育所の自己評価
 - (3) 保育の計画の再編成
 - (4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

保育内容総論(演習・1単位)

< 目標 >

- 1 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
- 2 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。
- 3 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。
- 4 子どもの生活全体を通して、養護(生命の保持、情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。
- 5 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

< 内容 >

- 1 保育の基本と保育内容
 - (1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
 - (2) 保育の全体構造と保育内容
- 2 保育内容の歴史の変遷
- 3 保育内容と子ども理解
 - (1) 子どもの発達の特性と保育内容
 - (2) 個と集団の発達と保育内容
 - (3) 保育における観察
 - (4) 保育における記録
- 4 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
 - (1) 養護と教育が一体的に展開する保育
 - (2) 環境を通して行う保育
 - (3) 遊びによる総合的な保育
 - (4) 生活や発達の連続性に考慮した保育
 - (5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
- 5 保育の多様な展開
 - (1) 乳児保育
 - (2) 長時間の保育
 - (3) 特別な支援を必要とする子どもの保育
 - (4) 多文化共生の保育

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

保育内容演習(演習・5単位)

< 目標 >

- 1 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
- 2 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

< 内容 >

以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。

- 1 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助やかかわりである「養護」
 - ① 子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、かつ快適に過ごすための生活援助
 - ② 子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助やかかわり
- 2 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育(健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域)」
 - ① 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。
 - ② 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域。
 - ③ 周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。
 - ④ 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。
 - ⑤ 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」の領域。

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

乳児保育(演習・2単位)

< 目標 >

- 1 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。
- 2 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。
- 3 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。
- 4 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。
- 5 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

< 内容 >

- 1 乳児保育の理念と役割
 - (1) 乳児保育の理念と歴史的変遷
 - (2) 乳児保育の役割と機能
- 2 乳児保育の現状と課題
 - (1) 保育所における乳児保育
 - (2) 乳児院における乳児保育
 - (3) 家庭的保育等における乳児保育
 - (4) 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
- 3 3歳未満児の発達と保育内容
 - (1) 乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり
 - (2) 6か月未満児の発達と保育内容
 - (3) 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容
 - (4) 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
 - (5) 2歳児の発達と保育内容
- 4 乳児保育の実際
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価
 - (2) 個々の発達を促す生活と遊びの環境
 - (3) 職員間の協働
- 5 乳児保育における連携
 - (1) 保護者とのパートナーシップ
 - (2) 保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

障害児保育(演習・2単位)

< 目標 >

- 1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
- 2 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
- 3 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
- 4 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
- 5 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

< 内容 >

- 1 障害児保育を支える理念
 - (1) 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
 - (2) 障害児保育の基本
- 2 障害の理解と保育における発達の援助
 - (1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助
 - (2) 知的障害児の理解と援助
 - (3) 発達障害児の理解と援助①(ADHD—注意欠陥多動性障害、LD—学習障害等)
 - (4) 発達障害児の理解と援助②(PDD—広汎性発達障害等)
- 3 障害児保育の実際
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
 - (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - (3) 子ども同士のかかわりと育ち合い
 - (4) 職員間の協働
- 4 家庭及び関係機関との連携
 - (1) 保護者や家族に対する理解と支援
 - (2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
 - (3) 小学校等との連携
- 5 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題
 - (1) 保健・医療における現状と課題
 - (2) 福祉・教育における現状と課題
 - (3) 支援の場の広がりとながり

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

社会的養護内容(演習・1単位)

< 目標 >

- 1 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。
- 2 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
- 3 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
- 4 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
- 5 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

< 内容 >

- 1 社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務
 - (1) 児童の権利擁護
 - (2) 保育士等の倫理及び責務
- 2 社会的養護の実施体系
 - (1) 施設養護の特性及び実際
 - (2) 里親制度の特性及び実際
- 3 支援の計画と内容及び事例分析
 - (1) 個別支援計画の作成
 - (2) 日常生活支援に関する事例分析
 - (3) 治療的支援に関する事例分析
 - (4) 自立支援に関する事例分析
 - (5) 記録及び自己評価
- 4 社会的養護にかかわる専門的技術
 - (1) 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用
 - (2) ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用
- 5 今後の課題と展望
 - (1) 施設の小規模化と地域とのかかわり
 - (2) 社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

< 科目名 >

保育相談支援(演習・1単位)

< 目標 >

- 1 保育相談支援の意義と原則について理解する。
- 2 保護者支援の基本を理解する。
- 3 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
- 4 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

< 内容 >

- 1 保育相談支援の意義
 - (1) 保護者に対する保育相談支援の意義
 - (2) 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
- 2 保育相談支援の基本
 - (1) 子どもの最善の利益と福祉の重視
 - (2) 子どもの成長の喜びの共有
 - (3) 保護者の養育力の向上に資する支援
 - (4) 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
 - (5) 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
- 3 保育相談支援の実際
 - (1) 保育に関する保護者に対する指導
 - (2) 保護者支援の内容
 - (3) 保護者支援の方法と技術
 - (4) 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
- 4 児童福祉施設における保育相談支援
 - (1) 保育所における保育相談支援の実際
 - (2) 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
 - (3) 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
 - (4) 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

【保育の表現技術】

<科目名>

保育の表現技術(演習・4単位)

<目標>

- 1 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。
- 2 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。
- 3 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。

<内容>

- 1 身体表現に関する知識や技術
 - (1) 子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術
 - (2) 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等にみる子どもの経験と保育の環境
 - (3) 子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開
- 2 音楽表現に関する知識や技術
 - (1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術
 - (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境
 - (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
- 3 造形表現に関する知識や技術
 - (1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術
 - (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境
 - (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開
- 4 言語表現等に関する知識や技術
 - (1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術
 - (2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境
 - (3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開
- 5 教材等の活用及び作成と保育の展開
 - (1) 様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成
 - (2) 子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開

【保育実習】

< 科目名 >

保育実習 I (実習・4単位：保育所実習 2単位・施設実習 2単位)

< 目標 >

- 1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- 2 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
- 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

< 保育所実習の内容 >

- 1 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
- 2 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助やかかわり
- 3 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
- 4 保育の計画、観察、記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
- 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

< 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容 >

- 1 施設の役割と機能
 - (1) 施設の生活と一日の流れ
 - (2) 施設の役割と機能
- 2 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり
- 3 養護内容・生活環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた対応
 - (3) 子どもの活動と生活の環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
- 4 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
- 5 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

【保育実習】

< 科目名 >

保育実習指導 I (演習・2 単位)

< 目標 >

- 1 保育実習の意義・目的を理解する。
- 2 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- 4 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

< 内容 >

- 1 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
- 2 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容
 - (2) 実習の課題
- 3 実習に際しての留意事項
 - (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
 - (2) プライバシーの保護と守秘義務
 - (3) 実習生としての心構え
- 4 実習の計画と記録
 - (1) 実習における計画と実践
 - (2) 実習における観察、記録及び評価
- 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

【総合演習】

<科目名>

保育実践演習(演習・2単位)

<目標>

- 1 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
- 2 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
- 3 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
- 4 必修科目(保育実践演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

<内容>

「保育実践演習」は、次の①又は②のいずれかを行うものとする。

- ① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。
- ② 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認する。

【参考例】

①について

(課題)

- 1 少子化への対応
- 2 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
- 3 長時間保育と子どもの発達について
- 4 幼稚園・認定こども園・小学校との連携について

(方法)

- 1 テーマごとのディスカッション
- 2 研究発表

②について

(必要な知識技能を修得したことを確認するための方法・内容)

- 1 イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
- 2 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
- 3 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
- 4 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
- 5 資質能力の確認、まとめ

【保育実習】

< 科目名 >

保育実習Ⅱ(実習・2単位：保育所実習)

< 目標 >

- 1 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- 2 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
- 3 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- 4 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
- 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
- 6 保育士としての自己の課題を明確化する。

< 内容 >

- 1 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
- 2 観察に基づく保育理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の動きや実践の観察
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
- 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
 - (3) 地域社会との連携
- 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
- 5 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
- 6 自己の課題の明確化

【保育実習】

< 科目名 >

保育実習Ⅲ(実習・2単位：保育所以外の施設実習)

< 目標 >

- 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
- 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
- 4 保育士としての自己の課題を明確化する。

< 内容 >

- 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
- 2 施設における支援の実際
 - (1) 受容し、共感する態度
 - (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解
 - (3) 個別支援計画の作成と実践
 - (4) 子どもの家族への支援と対応
 - (5) 多様な専門職との連携
 - (6) 地域社会との連携
- 3 保育士の多様な業務と職業倫理
- 4 保育士としての自己課題の明確化

【保育実習】

<科目名>

保育実習指導Ⅱ又はⅢ(演習・1単位)

<目標>

- 1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- 2 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- 3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- 4 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<内容>

- 1 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
- 2 保育実践力の育成
 - (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり
 - (2) 保育の表現技術を生かした保育実践
- 3 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
- 4 保育士の専門性と職業倫理
- 5 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

<教科目名> 保育原理 (講義・2単位)

<目標>

1. 保育の意義及び目的について理解する。
2. 保育に関する法令及び制度を理解する。
3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 保育の意義及び目的
 - (1) 保育の理念と概念
 - (2) 子どもの最善の利益と保育
 - (3) 子ども家庭福祉と保育
 - (4) 保育の社会的役割と責任
2. 保育に関する法令及び制度
 - (1) 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令
 - (2) 子ども・子育て支援新制度
 - (3) 保育の実施体系
3. 保育所保育指針における保育の基本
 - (1) 保育所保育指針
 - (2) 保育所保育に関する基本原則
 - (3) 保育における養護
 - (4) 保育の目標
 - (5) 保育の内容
 - (6) 保育の環境・方法
 - (7) 子どもの理解に基づく保育の過程 (計画・実践・記録・省察・評価・改善) とその循環
4. 保育の思想と歴史的変遷
 - (1) 諸外国の保育の思想と歴史
 - (2) 日本の保育の思想と歴史
5. 保育の現状と課題
 - (1) 諸外国の保育の現状
 - (2) 日本の保育の現状と課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 教育原理（講義・2単位）

<目標>

1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性
 - (1) 教育の意義
 - (2) 教育の目的
 - (3) 乳幼児期の教育の特性
 - (4) 教育と子ども家庭福祉の関連性
 - (5) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性
2. 教育の思想と歴史的変遷
 - (1) 諸外国の教育の思想と歴史
 - (2) 日本の教育の思想と歴史
 - (3) 子ども観と教育観の変遷
3. 教育の制度
 - (1) 教育制度の基礎
 - (2) 教育法規・教育行政の基礎
 - (3) 諸外国の教育制度
4. 教育の実践
 - (1) 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）
 - (2) 教育実践の多様な取り組み
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題
 - (1) 生涯学習社会と教育
 - (2) 現代の教育課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭福祉（講義・2単位）

<目標>

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

<内容>

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷
 - (1) 子ども家庭福祉の理念と概念
 - (2) 子ども家庭福祉の歴史の変遷
 - (3) 現代社会と子ども家庭福祉
2. 子どもの人権擁護
 - (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷
 - (2) 児童の権利に関する条約
 - (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題
3. 子ども家庭福祉の制度と実施体系
 - (1) 子ども家庭福祉の制度と法体系
 - (2) 子ども家庭福祉の実施体系
 - (3) 児童福祉施設
 - (4) 子ども家庭福祉の専門職
4. 子ども家庭福祉の現状と課題
 - (1) 少子化と地域子育て支援
 - (2) 母子保健と子どもの健全育成
 - (3) 多様な保育ニーズへの対応
 - (4) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止
 - (5) 社会的養護
 - (6) 障害のある子どもへの対応
 - (7) 少年非行等への対応
 - (8) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
5. 子ども家庭福祉の動向と展望
 - (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
 - (2) 地域における連携・協働とネットワーク
 - (3) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 社会福祉（講義・2単位）

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

<内容>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の歴史的変遷
 - (3) 子ども家庭支援と社会福祉
2. 社会福祉の制度と実施体系
 - (1) 社会福祉の制度と法体系
 - (2) 社会福祉行財政と実施機関
 - (3) 社会福祉施設
 - (4) 社会福祉の専門職
 - (5) 社会保障及び関連制度の概要
3. 社会福祉における相談援助
 - (1) 相談援助の理論
 - (2) 相談援助の意義と機能
 - (3) 相談援助の対象と過程
 - (4) 相談援助の方法と技術
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み
 - (1) 情報提供と第三者評価
 - (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
5. 社会福祉の動向と課題
 - (1) 少子高齢化社会における子育て支援
 - (2) 共生社会の実現と障害者施策
 - (3) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (4) 諸外国の動向

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭支援論（講義・2単位）

<目標>

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

<内容>

1. 子ども家庭支援の意義と役割
 - (1) 子ども家庭支援の意義と必要性
 - (2) 子ども家庭支援の目的と機能
2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本
 - (1) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
 - (2) 子どもの育ちの喜びの共有
 - (3) 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
 - (4) 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
 - (5) 家庭の状況に応じた支援
 - (6) 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
3. 子育て家庭に対する支援の体制
 - (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 - (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
4. 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子ども家庭支援の内容と対象
 - (2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
 - (3) 地域の子育て家庭への支援
 - (4) 要保護児童等及びその家庭に対する支援
 - (5) 子ども家庭支援に関する現状と課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 社会的養護 I (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷
 - (1) 社会的養護の理念と概念
 - (2) 社会的養護の歴史の変遷
2. 社会的養護の基本
 - (1) 子どもの人権擁護と社会的養護
 - (2) 社会的養護の基本原則
 - (3) 社会的養護における保育士等の倫理と責務
3. 社会的養護の制度と実施体系
 - (1) 社会的養護の制度と法体系
 - (2) 社会的養護の仕組みと実施体系
4. 社会的養護の対象・形態・専門職
 - (1) 社会的養護の対象
 - (2) 家庭養護と施設養護
 - (3) 社会的養護に関わる専門職
5. 社会的養護の現状と課題
 - (1) 社会的養護に関する社会的状況
 - (2) 施設等の運営管理
 - (3) 被措置児童等の虐待防止
 - (4) 社会的養護と地域福祉

【保育の本質・目的に関する科目】

<教科目名> 保育者論（講義・2単位）

<目標>

1. 保育者の役割と倫理について理解する。
2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。
3. 保育士の専門性について考察し、理解する。
4. 保育者の連携・協働について理解する。
5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

<内容>

1. 保育者の役割と倫理
 - (1) 役割・職務内容
 - (2) 倫理
2. 保育士の制度的位置付け
 - (1) 児童福祉法における保育士の定義
 - (2) 資格・要件
 - (3) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等
3. 保育士の専門性
 - (1) 保育士の資質・能力
 - (2) 養護及び教育の一体的展開
 - (3) 家庭との連携と保護者に対する支援
 - (4) 計画に基づく保育の実践と省察・評価
 - (5) 保育の質の向上
4. 保育者の連携・協働
 - (1) 保育における職員間の連携・協働
 - (2) 専門職間及び専門機関との連携・協働
 - (3) 地域における自治体や関係機関等との連携・協働
5. 保育者の資質向上とキャリア形成
 - (1) 資質向上に関する組織的取組
 - (2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義
 - (3) 組織とリーダーシップ

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 保育の心理学（講義・2単位）

<目標>

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

<内容>

1. 発達を捉える視点
 - (1) 子どもの発達を理解することの意義
 - (2) 子どもの発達と環境
 - (3) 発達理論と子ども観・保育観
2. 子どもの発達過程
 - (1) 社会情動的発達
 - (2) 身体的機能と運動機能の発達
 - (3) 認知の発達
 - (4) 言語の発達
3. 子どもの学びと保育
 - (1) 乳幼児期の学びに関わる理論
 - (2) 乳幼児期の学びの過程と特性
 - (3) 乳幼児期の学びを支える保育

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子ども家庭支援の心理学（講義・2単位）

<目標>

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

<内容>

1. 生涯発達
 - (1) 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
 - (2) 学童期後期から青年期にかけての発達
 - (3) 成人期・老年期における発達
2. 家族・家庭の理解
 - (1) 家族・家庭の意義と機能
 - (2) 親子関係・家族関係の理解
 - (3) 子育ての経験と親としての育ち
3. 子育て家庭に関する現状と課題
 - (1) 子育てを取り巻く社会的状況
 - (2) ライフコースと仕事・子育て
 - (3) 多様な家庭とその理解
 - (4) 特別な配慮を要する家庭
4. 子どもの精神保健とその課題
 - (1) 子どもの生活・生育環境とその影響
 - (2) 子どもの心の健康に関わる問題

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの理解と援助（演習・1単位）

<目標>

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<内容>

1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
 - (1) 保育における子どもの理解の意義
 - (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開
 - (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
2. 子どもを理解する視点
 - (1) 子どもの生活や遊び
 - (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
 - (3) 子ども相互の関わりと関係づくり
 - (4) 集団における経験と育ち
 - (5) 葛藤やつまずき
 - (6) 保育の環境の理解と構成
 - (7) 環境の変化や移行
3. 子どもを理解する方法
 - (1) 観察
 - (2) 記録
 - (3) 省察・評価
 - (4) 職員間の対話
 - (5) 保護者との情報の共有
4. 子どもの理解に基づく発達援助
 - (1) 発達の課題に応じた援助と関わり
 - (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
 - (3) 発達の連続性と就学への支援

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの保健（講義・2単位）

<目標>

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

<内容>

1. 子どもの心身の健康と保健の意義
 - (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
 - (4) 地域における保健活動と子ども虐待防止
2. 子どもの身体的発育・発達と保健
 - (1) 身体発育及び運動機能の発達と保健
 - (2) 生理機能の発達と保健
3. 子どもの心身の健康状態とその把握
 - (1) 健康状態の観察
 - (2) 心身の不調等の早期発見
 - (3) 発育・発達の把握と健康診断
 - (4) 保護者との情報共有
4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応
 - (1) 主な疾病の特徴
 - (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応

【保育の対象の理解に関する科目】

<教科目名> 子どもの食と栄養（演習・2単位）

<目標>

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、
「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等

<内容>

1. 子どもの健康と食生活の意義
 - (1) 子どもの心身の健康と食生活
 - (2) 子どもの食生活の現状と課題
2. 栄養に関する基本的知識
 - (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
 - (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3. 子どもの発育・発達と食生活
 - (1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
 - (2) 幼児期の心身の発達と食生活
 - (3) 学童期の心身の発達と食生活
 - (4) 生涯発達と食生活
4. 食育の基本と内容
 - (1) 保育における食育の意義・目的と基本的考え方
 - (2) 食育の内容と計画及び評価
 - (3) 食育のための環境
 - (4) 地域の関係機関や職員間の連携
 - (5) 食生活指導及び食を通じた保護者への支援
5. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - (1) 家庭における食事と栄養
 - (2) 児童福祉施設における食事と栄養
6. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
 - (1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
 - (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
 - (3) 障害のある子どもへの対応

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育の計画と評価（講義・2単位）

<目標>

1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。

<内容>

1. 保育の計画と評価の基本
 - (1) カリキュラムの基礎理論
 - (2) 保育における計画と評価の意義
 - (3) 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上
2. 保育所における保育の計画
 - (1) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景
 - (2) 保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方
 - (3) 全体的な計画と指導計画の関係性
 - (4) 全体的な計画の作成
 - (5) 指導計画（長期的・短期的）の作成
 - (6) 指導計画作成上の留意事項
 - (7) 計画に基づく保育の柔軟な展開
3. 保育所における保育の評価
 - (1) 保育の記録及び省察
 - (2) 保育士及び保育所の自己評価
 - (3) 保育の質向上に向けた改善の取組
 - (4) 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容総論（演習・1単位）

<目標>

1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。
4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。

<内容>

1. 保育の全体構造と保育内容
 - (1) 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解
 - (2) 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景
 - (3) 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方
2. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
[保育の基本的な考え方]
 - ・養護及び教育が一体的に展開する保育
 - ・子どもの主体性を尊重する保育
 - ・環境を通して行う保育
 - ・生活や遊びによる総合的な保育
 - ・個と集団の発達を踏まえた保育
 - ・家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育 等
3. 保育の多様な展開
 - (1) 長時間の保育
 - (2) 特別な配慮を要する子どもの保育
 - (3) 多文化共生の保育

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容演習（演習・5単位）

<目標>

1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。
2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域（「健康・人間関係・環境・言葉・表現」）を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。
3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。
4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。

<内容>

以下の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりである「養護」
 - ① 子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、快適に過ごすための生活援助
 - ② 子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助や関わり
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」
 - (1) 保育所保育指針に示す乳児保育における3つの視点
 - ① 「健やかに伸び伸びと育つ」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う）
 - ② 「身近な人と気持ちが通じ合う」（受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う）
 - ③ 「身近なものに関わり感性が育つ」（身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う）
 - (2) 保育所保育指針に示す1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育におけるそれぞれ5つの領域
 - ① 「健康」（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う）
 - ② 「人間関係」（他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う）
 - ③ 「環境」（周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う）
 - ④ 「言葉」（経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す

言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う)

- ⑤ 「表現」(感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする)

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 保育内容の理解と方法（演習・4単位）

<目標>

1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

<内容>

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験（※）と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。

1. 子どもの生活と遊びにおける他者（保育士等や他の子ども）との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術
2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要となる知識及び技術
3. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要となる知識及び技術

※子どもの生活と遊びにおける体験の例

- ① 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験
- ② 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験
- ③ 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ体験
- ④ 子ども自らが児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）に親しむ体験

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 乳児保育 I (講義・2単位)

<目標>

1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。

<内容>

1. 乳児保育の意義・目的と役割
 - (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
 - (2) 乳児保育の役割と機能
 - (3) 乳児保育における養護及び教育
2. 乳児保育の現状と課題
 - (1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
 - (2) 保育所における乳児保育
 - (3) 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育
 - (4) 家庭的保育等における乳児保育
 - (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
 - (1) 3歳未満児の生活と環境
 - (2) 3歳未満児の遊びと環境
 - (3) 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
 - (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
 - (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
 - (6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
4. 乳児保育における連携・協働
 - (1) 職員間の連携・協働
 - (2) 保護者との連携・協働
 - (3) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 乳児保育Ⅱ（演習・1単位）

<目標>

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。

<内容>

1. 乳児保育の基本
 - (1) 子どもと保育士等との関係の重要性
 - (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
 - (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち
 - (4) 子どもの体験と学びの芽生え
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
 - (1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境
 - (2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
 - (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
 - (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
 - (5) 子ども同士の関わりとその援助の実際
3. 乳児保育における配慮の実際
 - (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
 - (2) 集団での生活における配慮
 - (3) 環境の変化や移行に対する配慮
4. 乳児保育における計画の実際
 - (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画
 - (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名>子どもの健康と安全（演習・1単位）

<目標>

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

<内容>

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
 - (1) 子どもの健康と保育の環境
 - (2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
2. 保育における健康及び安全の管理
 - (1) 衛生管理
 - (2) 事故防止及び安全対策
 - (3) 危機管理
 - (4) 災害への備え
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応
 - (1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応
 - (2) 応急処置
 - (3) 救急処置及び救急蘇生法
4. 感染症対策
 - (1) 感染症の集団発生の予防
 - (2) 感染症発生時と罹患後の対応
5. 保育における保健的対応
 - (1) 保育における保健的対応の基本的な考え方
 - (2) 3歳未満児への対応
 - (3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）
 - (4) 障害のある子どもへの対応
6. 健康及び安全の管理の実施体制

- (1) 職員間の連携・協働と組織的取組
- (2) 保育における保健活動の計画及び評価
- (3) 母子保健・地域保健における自治体との連携
- (4) 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 障害児保育（演習・2単位）

<目標>

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

<内容>

1. 障害児保育を支える理念
 - (1) 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
 - (2) 障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
2. 障害児等の理解と保育における発達の援助
 - (1) 肢体不自由児の理解と援助
 - (2) 知的障害児の理解と援助
 - (3) 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助
 - (4) 発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）
 - (5) 発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等）
 - (6) 重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助
 - (7) その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際
 - (1) 指導計画及び個別の支援計画の作成
 - (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - (3) 子ども同士の関わりと育ち合い
 - (4) 障害児保育における子どもの健康と安全
 - (5) 職員間の連携・協働
4. 家庭及び自治体・関係機関との連携
 - (1) 保護者や家族に対する理解と支援
 - (2) 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援
 - (3) 障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働
 - (4) 小学校等との連携
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題
 - (1) 保健・医療における現状と課題
 - (2) 福祉・教育における現状と課題

(3) 支援の場の広がりつつながり

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 社会的養護Ⅱ（演習・1単位）

<目標>

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

<内容>

1. 社会的養護の内容
 - (1) 社会的養護における子どもの理解
 - (2) 日常生活支援
 - (3) 治療的支援
 - (4) 自立支援
2. 社会的養護の実際
 - (1) 施設養護の生活特性及び実際
 - (2) 家庭養護の生活特性及び実際
3. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
 - (1) アセスメントと個別支援計画の作成
 - (2) 記録及び自己評価
4. 社会的養護に関わる専門的技術
 - (1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
 - (2) 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
5. 今後の課題と展望
 - (1) 社会的養護における家庭支援
 - (2) 社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

<教科目名> 子育て支援（演習・1単位）

<目標>

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

<内容>

1. 保育士の行う子育て支援の特性
 - （1）子どもの保育とともに行う保護者の支援
 - （2）日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
 - （3）保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
 - （4）子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
2. 保育士の行う子育て支援の展開
 - （1）子ども及び保護者の状況・状態の把握
 - （2）支援の計画と環境の構成
 - （3）支援の実践・記録・評価・カンファレンス
 - （4）職員間の連携・協働
 - （5）社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）
 - （1）保育所等における支援
 - （2）地域の子育て家庭に対する支援
 - （3）障害のある子ども及びその家庭に対する支援
 - （4）特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
 - （5）子ども虐待の予防と対応
 - （6）要保護児童等の家庭に対する支援
 - （7）多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

【保育実習】

<教科目名> 保育実習 I (実習・4単位：保育所実習2単位・施設実習2単位)

<目標>

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

<保育所実習の内容>

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

<児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容>

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 施設における子どもの生活と環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応
 - (3) 子どもの活動と環境

(4) 健康管理、安全対策の理解

4. 計画と記録

(1) 支援計画の理解と活用

(2) 記録に基づく省察・自己評価

5. 専門職としての保育士の役割と倫理

(1) 保育士の業務内容

(2) 職員間の役割分担や連携

(3) 保育士の役割と職業倫理

【保育実習】

<教科目名> 保育実習指導 I (演習・2単位)

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容
 - (2) 実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
 - (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
 - (2) プライバシーの保護と守秘義務
 - (3) 実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
 - (1) 実習における計画と実践
 - (2) 実習における観察、記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

<教科目名> 保育実習Ⅱ（実習・2単位：保育所実習）

<目標>

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

<内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となっていく保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育の理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の援助や関わり
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
 - (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
 - (3) 関係機関や地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
 - (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

<教科目名> 保育実習Ⅲ（実習・2単位：保育所以外の施設実習）

<目標>

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 実習における自己の課題を理解する。

<内容>

1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
2. 施設における支援の実際
 - (1) 受容し、共感する態度
 - (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解
 - (3) 個別支援計画の作成と実践
 - (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応
 - (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働
 - (6) 地域社会との連携・協働
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

<教科目名> 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習・1単位）

<目標>

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<内容>

1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 保育の実践力の育成
 - (1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
 - (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

【総合演習】

<教科目名> 保育実践演習（演習・2単位）

<目標>

1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。
2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。
3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。

<内容>

1. 学びの振り返り

グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し、以下の①～④の観点を中心に、これまでの自らの学びを、保育実習等における体験と結びつけながら振り返る。

- ① 保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理
- ② 社会性、対人関係能力
- ③ 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携
- ④ 保育や子育て家庭に対する支援の展開

2. 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究

グループワークや研究発表、討論等により、保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。

3. 1及び2を踏まえて、自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握する。

その上で、目指す保育士像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化する。

<特例教科目> 福祉と養護（講義・2単位）

<考え方>

本特例教科目は、別添1に定める「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」の3つの教科目の目標及び内容をもとに、幼稚園教諭免許状を有する者が幼稚園等での実務経験により、子育て支援機関や家庭との連携について、一定の経験を積んでいることを考慮し、「社会福祉・子ども家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系等」及び「施設養護の実際」のほか、幼稚園等での実務経験では得られない内容等を中心に履修内容を構成すること。

<内容>

1. 現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷
 - (1) 理念と概念及び歴史的変遷
 - (2) 現代社会と子ども家庭福祉
2. 社会福祉と子ども家庭福祉の役割

- (1) 社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉
 - (2) 子ども家庭福祉の一分野としての保育と社会的養護
 - (3) 子どもの人権擁護
 - (4) 子ども家庭支援と社会福祉
3. 社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系
- (1) 各制度の法体系・行財政と実施機関
 - (2) 社会的養護の仕組みと実施体系（利用者保護及び評価等を含む）
 - (3) 社会福祉施設等と児童福祉施設等
 - (4) 家庭養護と施設養護
 - (5) 各制度を担う専門職
4. 子ども家庭福祉の現状と課題
- (1) 母子保健と児童の健全育成
 - (2) 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止
 - (3) 社会的養護
 - (4) 障害のある児童への対応
 - (5) 少年非行等への対応
 - (6) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
5. 施設養護の実際
- (1) 施設養護の基本原則
 - (2) 施設養護の実際（日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等）
 - (3) 施設養護と相談援助

社会福祉士指定科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成30年8月7日 社援発0807 第2号
社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について
(別添1) 「社会福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針」
の別表1による

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
人体の構造と機能及び疾病	<p>① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</p> <p>② 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</p> <p>③ リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>※ 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 人の成長・発達</p> <p>② 心身機能と身体構造の概要</p> <p>③ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要</p> <p>④ 健康の捉え方</p> <p>⑤ 疾病と障害の概要</p> <p>⑥ リハビリテーションの概要</p>
心理学理論と心理的支援	<p>① 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。</p> <p>② 人の成長・発達と心理との関係について理解する。</p> <p>③ 日常生活と心の健康との関係について理解する。</p> <p>④ 心理的支援の方法と実際について理解する。</p> <p>※ 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 人の心理学的理解</p> <p>② 人の成長・発達と心理</p> <p>③ 日常生活と心の健康</p> <p>④ 心理的支援の方法と実際</p>
社会理論と社会システム	<p>① 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</p> <p>② 生活について理解する。</p> <p>③ 人と社会の関係について理解する。</p> <p>④ 社会問題について理解する。※ 社会福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 現代社会の理解</p> <p>② 生活の理解</p> <p>③ 人と社会の関係</p> <p>④ 社会問題の理解</p>
現代社会と福祉	<p>① 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。</p> <p>② 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。</p> <p>③ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</p> <p>④ 福祉政策の課題について理解する。</p> <p>⑤ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。</p> <p>⑥ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。</p> <p>⑦ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>	<p>① 現代社会における福祉制度と福祉政策</p> <p>② 福祉の原理をめぐる理論と哲学</p> <p>③ 福祉制度の発達過程</p> <p>④ 福祉政策におけるニーズと資源</p> <p>⑤ 福祉政策の課題</p> <p>⑥ 福祉政策の構成要素</p> <p>⑦ 福祉政策と関連政策</p> <p>⑧ 相談援助活動と福祉政策の関係</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
社会調査の基礎	<p>① 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。</p> <p>② 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。</p> <p>③ 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。</p>	<p>① 社会調査の意義と目的</p> <p>② 統計法</p> <p>③ 社会調査における倫理</p> <p>④ 社会調査における個人情報保護</p> <p>⑤ 量的調査の方法</p> <p>⑥ 質的調査の方法</p> <p>⑦ 社会調査の実施に当たってのITの活用方法</p>
相談援助の基盤と専門職	<p>① 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。</p> <p>② 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。</p> <p>③ 相談援助の概念と範囲について理解する。</p> <p>④ 相談援助の理念について理解する。</p> <p>⑤ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</p> <p>⑥ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。</p> <p>⑦ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<p>① 社会福祉士の役割と意義</p> <p>② 精神保健福祉士の役割と意義</p> <p>③ 相談援助の概念と範囲</p> <p>④ 相談援助の理念</p> <p>⑤ 相談援助における権利擁護の意義</p> <p>⑥ 相談援助に係る専門職の概念と範囲</p> <p>⑦ 専門職倫理と倫理的ジレンマ</p> <p>⑧ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容</p>
相談援助の理論と方法	<p>① 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。</p> <p>② 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。</p> <p>③ 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）</p> <p>④ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。</p> <p>⑤ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。</p>	<p>① 人と環境の相互作用</p> <p>② 相談援助の対象</p> <p>③ 様々な実践モデルとアプローチ</p> <p>④ 相談援助の過程</p> <p>⑤ 相談援助における援助関係</p> <p>⑥ 相談援助のための面接技術</p> <p>⑦ ケースマネジメントとケアマネジメント</p> <p>⑧ アウトリーチ</p> <p>⑨ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発</p> <p>⑩ ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）</p> <p>⑪ 集団を活用した相談援助</p> <p>⑫ スーパービジョン</p> <p>⑬ 記録</p> <p>⑭ 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点</p> <p>⑮ 相談援助における情報通信技術（IT）の活用</p> <p>⑯ 事例分析</p> <p>⑰ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
地域福祉の理論と方法	<p>① 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。</p> <p>② 地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>③ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p> <p>④ 地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。</p> <p>⑤ 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。</p>	<p>① 地域福祉の基本的考え方</p> <p>② 地域福祉の主体と対象</p> <p>③ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民</p> <p>④ 地域福祉の推進方法</p>
福祉行財政と福祉計画	<p>① 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。</p> <p>② 福祉行財政の実際について理解する。</p> <p>③ 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。</p>	<p>① 福祉行政の実施体制</p> <p>② 福祉行財政の動向</p> <p>③ 福祉計画の意義と目的</p> <p>④ 福祉計画の主体と方法</p> <p>⑤ 福祉計画の実際</p>
福祉サービスの組織と経営	<p>① 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。</p> <p>② 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。</p> <p>③ 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。</p>	<p>① 福祉サービスに係る組織や団体</p> <p>② 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論</p> <p>③ 福祉サービス提供組織の経営と実際</p> <p>④ 福祉サービスの管理運営の方法と実際</p>
社会保障	<p>① 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。</p> <p>② 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</p> <p>③ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</p> <p>④ 社会保障制度の体系と概要について理解する。</p> <p>⑤ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</p> <p>⑥ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p>	<p>① 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）</p> <p>② 社会保障の概念や対象及びその理念</p> <p>③ 社会保障の財源と費用</p> <p>④ 社会保険と社会扶助の関係</p> <p>⑤ 公的保険制度と民間保険制度の関係</p> <p>⑥ 社会保障制度の体系</p> <p>⑦ 年金保険制度の具体的内容</p> <p>⑧ 医療保険制度の具体的内容</p> <p>⑨ 諸外国における社会保障制度の概要</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
高齢者に対する支援と介護保険制度	<p>高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>② 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>③ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。</p> <p>④ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。</p> <p>⑤ 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。</p> <p>⑥ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>① 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）</p> <p>② 高齢者福祉制度の発展過程</p> <p>③ 介護の概念や対象</p> <p>④ 介護予防</p> <p>⑤ 介護過程</p> <p>⑥ 認知症ケア</p> <p>⑦ 終末期ケア</p> <p>⑧ 介護と住環境</p> <p>⑨ 介護保険法</p> <p>⑩ 介護報酬</p> <p>⑪ 介護保険法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>⑫ 介護保険法における専門職の役割と実際</p> <p>⑬ 介護保険法におけるネットワーキングと実際</p> <p>⑭ 地域包括支援センターの役割と実際</p> <p>⑮ 老人福祉法</p> <p>⑯ 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）</p> <p>⑰ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <p>⑱ 高齢者の居住の安定確保に関する法律</p>
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	<p>① 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>② 障害者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>③ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>① 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要</p> <p>② 障害者福祉制度の発展過程</p> <p>③ 障害者自立支援法</p> <p>④ 障害者自立支援法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>⑤ 障害者自立支援法における専門職の役割と実際</p> <p>⑥ 障害者自立支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>⑦ 相談支援事業所の役割と実際</p> <p>⑧ 身体障害者福祉法</p> <p>⑨ 知的障害者福祉法</p> <p>⑩ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</p> <p>⑪ 発達障害者支援法</p> <p>⑫ 障害者基本法</p> <p>⑬ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律</p> <p>⑭ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <p>⑮ 障害者の雇用の促進等に関する法律</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	<p>① 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。</p> <p>② 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>③ 児童の権利について理解する。</p> <p>④ 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>① 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。)と実際</p> <p>② 児童・家庭福祉制度の発展過程</p> <p>③ 児童の定義と権利</p> <p>④ 児童福祉法</p> <p>⑤ 児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)</p> <p>⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(D.V法)</p> <p>⑦ 母子及び寡婦福祉法</p> <p>⑧ 母子保健法</p> <p>⑨ 児童手当法</p> <p>⑩ 児童扶養手当法</p> <p>⑪ 特別児童扶養手当等の支給に関する法律</p> <p>⑫ 次世代育成支援対策推進法</p> <p>⑬ 少子化社会対策基本法</p> <p>⑭ 売春防止法</p> <p>⑮ 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際</p> <p>⑯ 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際</p> <p>⑰ 児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>⑱ 児童相談所の役割と実際</p>
低所得者に対する支援と生活保護制度	<p>① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。</p> <p>② 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。</p> <p>③ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>	<p>① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際</p> <p>② 生活保護制度</p> <p>③ 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際</p> <p>④ 生活保護制度における専門職の役割と実際</p> <p>⑤ 生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>⑥ 福祉事務所の役割と実際</p> <p>⑦ 自立支援プログラムの意義と実際</p> <p>⑧ 低所得者対策</p> <p>⑨ 低所得者へ住宅政策</p> <p>⑩ ホームレス対策</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
保健医療サービス	<p>① 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。</p> <p>② 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。</p>	<p>① 医療保険制度</p> <p>② 診療報酬</p> <p>③ 保健医療サービスの概要</p> <p>④ 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際</p> <p>⑤ 保健医療サービス関係者との連携と実際</p>
就労支援サービス	<p>① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。</p> <p>② 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。</p> <p>③ 就労支援分野との連携について理解する。</p>	<p>① 雇用・就労の動向と労働施策の概要</p> <p>② 就労支援制度の概要</p> <p>③ 就労支援に係る組織、団体の役割と実際</p> <p>④ 就労支援に係る専門職の役割と実際</p> <p>⑤ 就労支援分野との連携と実際</p>
権利擁護と成年後見制度	<p>① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。</p> <p>② 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。</p> <p>③ 成年後見制度の実際について理解する。</p> <p>④ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p>	<p>① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり</p> <p>② 成年後見制度</p> <p>③ 日常生活自立支援事業</p> <p>④ 成年後見制度利用支援事業</p> <p>⑤ 権利養護に係る組織、団体の役割と実際</p> <p>⑥ 権利擁護活動の実際</p>
更生保護制度	<p>① 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。</p> <p>② 更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。</p> <p>③ 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。</p>	<p>① 更生保護制度の概要</p> <p>② 更生保護制度の担い手</p> <p>③ 更生保護制度における関係機関・団体との連携</p> <p>④ 医療観察制度の概要</p> <p>⑤ 更生保護における近年の動向と課題</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
相談援助演習	<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p>	<p>① 以下の内容については相談援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと</p> <p>ア 自己覚知</p> <p>イ 基本的なコミュニケーション技術の習得</p> <p>ウ 基本的な面接技術の習得</p> <p>エ 次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。</p> <p>（ア）社会的排除</p> <p>（イ）虐待（児童・高齢者）</p> <p>（ウ）家庭内暴力（D.V）</p> <p>（エ）低所得者</p> <p>（オ）ホームレス</p> <p>（カ）その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）</p> <p>オ エに掲げる事例等を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。</p> <p>（ア）インテーク</p> <p>（イ）アセスメント</p> <p>（ウ）プランニング</p> <p>（エ）支援の実施</p> <p>（オ）モニタリング</p> <p>（カ）効果測定</p> <p>（キ）終結とアフターケア</p> <p>カ オの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <p>（ア）アウトリーチ</p> <p>（イ）チームアプローチ</p> <p>（ウ）ネットワークキング</p> <p>（エ）社会資源の活用・調整・開発</p> <p>キ 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行うこと。</p> <p>（ア）地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握</p> <p>（イ）地域福祉の計画</p> <p>（ウ）ネットワークキング</p> <p>（エ）社会資源の活用・調整・開発</p> <p>（オ）サービスの評価</p> <p>② 相談援助実習後に行うこと。</p> <p>相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における生徒の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
相談援助実習指導	<p>相談援助実習の意義について理解する。</p> <p>② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>	<p>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。</p> <p>① 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>② 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>③ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解</p> <p>④ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）</p> <p>⑤ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解</p> <p>⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）</p> <p>⑦ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</p> <p>⑨ 巡回指導</p> <p>⑩ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>⑪ 実習の評価全体総括会</p>

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
相談援助実習	<p>① 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>② 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>③ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>	<p>個別指導を十分に行うものとする。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価</p> <p>オ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>キ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ク 当該実習先が地域社会の中での施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>

介護福祉士指定科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成30年8月7日 社援発0807 第2号
社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について
(別添2) 「介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針」
別表1 (法第40条第2項第1号の介護福祉士養成施設関係) による

資格取得時の介護福祉士養成の目標

- 1 尊厳と自立を支えるケアを実践する
- 2 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
- 3 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
- 4 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
- 5 QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
- 6 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
- 7 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
- 8 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
- 9 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
- 10 介護職の中で中核的な役割を担う
+
高い倫理性の保持

領域	領域の目的		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。 2 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 3 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。 4 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。 5 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。 		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
	人間の尊厳と自立 (30時間以上)	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。	① 人間の尊厳と人権・福祉理念 ② 自立の概念
	人間関係とコミュニケーション (60 時間以上)	(1) 対人援助に必要な人間関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。	① 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 ② チームマネジメント

人間と社会	社会の理解 (60時間以上)	(1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。 (2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。 (3) 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。 (4) 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。	① 社会と生活のしくみ ② 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ③ 社会保障制度 ④ 高齢者福祉と介護保険制度 ⑤ 障害者福祉と障害者保健福祉制度 ⑥ 介護実践に関連する諸制度						
	人間と社会に関する選択科目	以下の内容のうちから介護福祉士養成施設ごとに選択して、科目の内容及び時間を設定する。 ① 生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習（科目例：生物、生命科学） ② 数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習（科目例：統計、数学（基礎）、経理） ③ 家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習（科目例：家庭、生活技術、生活文化） ④ 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代をいきる人間としての生き方について考える力を養う学習（科目例：社会、現代社会、憲法論、政治・経済） ⑤ 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解や、国際的な視野を養う学習（科目例：国際理解、多文化共生） ⑥ その他の社会保障関連制度についての学習（科目例：労働法制、住宅政策、教育制度、児童福祉）							
	領域の目的								
	1 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 3 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 4 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 5 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 6 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">教育内容</th> <th style="width: 30%;">ねらい</th> <th style="width: 40%;">教育に含むべき事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="256 1700 608 2119"> 介護の基本 (180時間) </td> <td data-bbox="608 1700 1086 2119"> 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 </td> <td data-bbox="1086 1700 1543 2119"> ① 介護福祉の基本となる理念 ② 介護福祉士の役割と機能 ③ 介護福祉士の倫理 ④ 自立に向けた介護 ⑤ 介護を必要とする人の理解 ⑥ 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ ⑦ 協働する多職種の役割と機能 ⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント ⑨ 介護従事者の安全 </td> </tr> </tbody> </table>	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項	介護の基本 (180時間)	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。	① 介護福祉の基本となる理念 ② 介護福祉士の役割と機能 ③ 介護福祉士の倫理 ④ 自立に向けた介護 ⑤ 介護を必要とする人の理解 ⑥ 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ ⑦ 協働する多職種の役割と機能 ⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント ⑨ 介護従事者の安全		
教育内容	ねらい	教育に含むべき事項							
介護の基本 (180時間)	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。	① 介護福祉の基本となる理念 ② 介護福祉士の役割と機能 ③ 介護福祉士の倫理 ④ 自立に向けた介護 ⑤ 介護を必要とする人の理解 ⑥ 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ ⑦ 協働する多職種の役割と機能 ⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント ⑨ 介護従事者の安全							

介護	コミュニケーション技術 (60時間)	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。	① 介護を必要とする人とのコミュニケーション ② 介護における家族とのコミュニケーション ③ 障害の特性に応じたコミュニケーション ④ 介護におけるチームのコミュニケーション
	生活支援技術 (300時間)	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。	① 生活支援の理解 ② 自立に向けた居住環境の整備 ③ 自立に向けた移動の介護 ④ 自立に向けた身じたくの介護 ⑤ 自立に向けた食事の介護 ⑥ 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ⑦ 自立に向けた排泄の介護 ⑧ 自立に向けた家事の介護 ⑨ 休息・睡眠の介護 ⑩ 人生の最終段階における介護 ⑪ 福祉用具の意義と活用
	介護過程 (150時間)	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。	① 介護過程の意義と基礎的理解 ② 介護過程とチームアプローチ ③ 介護過程の展開の理解
	介護総合演習 (120時間)	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。	① 知識と技術の統合 ② 介護実践の科学的探求
	介護実習 (450時間)	(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。	① 介護過程の実践的展開 ② 多職種協働の実践 ③ 地域における生活支援の実践
	領域の目的		
<p>1 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。</p> <p>2 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。</p> <p>3 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。</p>			

	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ (120時間)	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。	① こころとからだのしくみ I ア こころのしくみの理解 イ からだのしくみの理解 ② こころとからだのしくみ II ア 移動に関連したこころとからだのしくみ イ 身じたくに関連したこころとからだのしくみ ウ 食事に関連したこころとからだのしくみ エ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ オ 排泄に関連したこころとからだのしくみ カ 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ キ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
	発達と老化の理解 (60時間)	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。	① 人間の成長と発達の基礎的理解 ② 老化に伴うこころとからだの変化と生活
	認知症の理解 (60時間)	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。	① 認知症を取り巻く状況 ② 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 ③ 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア ④ 連携と協働 ⑤ 家族への支援
	障害の理解 (60時間)	身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。	① 障害の基礎的理解 ② 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 ③ 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 ④ 連携と協働 ⑤ 家族への支援
医療的ケア	領域の目的		
	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。		
	教育内容	ねらい	教育に含むべき事項
医療的ケア (50時間以上)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） ③経管栄養（基礎的知識・実施手順） ④演習	

(注) 領域「医療的ケア」に関する留意事項

・ 「医療的ケア実施の基礎」から「経管栄養（基礎的知識・実施手順）」までについて50時間の教育を行うこととし、「演習」については50時間に含めないこと。・ 「医療的ケア実施の基礎」では、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容とすること。

・ 「喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）」では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する内容とすること。

・ 「経管栄養（基礎的知識・実施手順）」では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する内容とすること。

・ 「演習」の回数は次のとおりとすること。

ア 喀痰吸引：口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上

イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上

※ 救急蘇生法演習（1回以上）も併せて行うこと。

精神保健福祉士指定科目

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

平成27年3月31日 障発0331第28号
「精神保健福祉士養成施設等の設置及び運営に係る指針」
の別表1による

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
人体の構造と機能及び疾病	<p>① 心理機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</p> <p>② 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</p> <p>③ リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 人の成長・発達</p> <p>② 心身機能と身体構造の概要</p> <p>③ 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要</p> <p>④ 健康の捉え方</p> <p>⑤ 疾病と障害の概要</p> <p>⑥ リハビリテーションの概要</p>
心理学理論と心理的支援	<p>① 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。</p> <p>② 人の成長・発達と心理との関係について理解する。</p> <p>③ 日常生活と心の健康との関係について理解する。</p> <p>④ 心理的支援の方法と実際について理解する。</p> <p>※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 人の心理学的理解</p> <p>② 人の成長・発達と心理</p> <p>③ 日常生活と心の健康</p> <p>④ 心理的支援の方法と実際</p>
社会理論と社会システム	<p>① 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</p> <p>② 生活について理解する。</p> <p>③ 人と社会の関係について理解する。</p> <p>④ 社会問題について理解する。</p> <p>※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	<p>① 現代社会の理解</p> <p>② 生活の理解</p> <p>③ 人と社会の関係</p> <p>④ 社会問題の理解</p>
現代社会と福祉	<p>① 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。</p> <p>② 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。</p> <p>③ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</p> <p>④ 福祉政策の課題について理解する。</p> <p>⑤ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。</p> <p>⑥ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。</p> <p>⑦ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>	<p>① 現代社会における福祉制度と福祉政策</p> <p>② 福祉の原理をめぐる理論と哲学</p> <p>③ 福祉制度の発達過程</p> <p>④ 福祉政策におけるニーズと資源</p> <p>⑤ 福祉政策の課題</p> <p>⑥ 福祉政策の構成要素</p> <p>⑦ 福祉政策と関連政策</p> <p>⑧ 相談援助活動と福祉政策の関係</p>
地域福祉の理論と方法	<p>① 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包括等を含む。）について理解する。</p> <p>② 地域福祉の主体と対象について理解する。</p> <p>③ 地域福祉に係わる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</p> <p>④ 地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。</p> <p>⑤ 地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。</p>	<p>① 地域福祉の基本的考え方</p> <p>② 地域福祉の主体と対象</p> <p>③ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民</p> <p>④ 地域福祉の推進方法</p>

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
社会保障	<p>① 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。</p> <p>② 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。</p> <p>③ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</p> <p>④ 社会保障制度の体系と概要について理解する。</p> <p>⑤ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</p> <p>⑥ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p>	<p>① 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）</p> <p>② 社会保障の概念や対象及びその理念</p> <p>③ 社会保障の財源と費用</p> <p>④ 社会保険と社会扶助の関係</p> <p>⑤ 公的保険制度と民間保険制度の関係</p> <p>⑥ 社会保障制度の体系</p> <p>⑦ 年金保険制度の具体的内容</p> <p>⑧ 医療保険制度の具体的内容</p> <p>⑨ 諸外国における社会保障制度の</p>
低所得者に対する支援と生活保護制度	<p>① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。</p> <p>② 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。</p> <p>③ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>	<p>① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際</p> <p>② 生活保護制度</p> <p>③ 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際</p> <p>④ 生活保護制度における専門職の役割と実際</p> <p>⑤ 生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際</p> <p>⑥ 福祉事務所の役割と実際</p> <p>⑦ 自立支援プログラムの意義と実際</p> <p>⑧ 低所得者対策</p> <p>⑨ 低所得者への住宅政策</p> <p>⑩ ホームレス対策</p>
福祉行財政と福祉計画	<p>① 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。</p> <p>② 福祉行財政の実際について理解する。</p> <p>③ 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。</p>	<p>① 福祉行政の実施体制</p> <p>② 福祉行財政の動向</p> <p>③ 福祉計画の意義と目的</p> <p>④ 福祉計画の主体と方法</p> <p>⑤ 福祉計画の実際</p>
保健医療サービス	<p>① 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。</p> <p>② 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。</p>	<p>① 医療保険制度</p> <p>② 診療報酬</p> <p>③ 保健医療サービスの概要</p> <p>④ 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際</p> <p>⑤ 保健医療サービス関係者との連携と実際</p>
権利擁護と成年後見制度	<p>① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。</p> <p>② 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。</p> <p>③ 成年後見制度の実際について理解する。</p> <p>④ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p>	<p>① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり</p> <p>② 成年後見制度</p> <p>③ 日常生活自立支援事業</p> <p>④ 成年後見制度利用支援事業</p> <p>⑤ 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際</p> <p>⑥ 権利擁護活動の実際</p>

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	<p>① 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。</p> <p>② 障害者福祉制度の発展過程について理解する。</p> <p>③ 相談援助活動において必要となる障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第二百二十三号。以下「障害者総合支援法」という。）や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</p>	<p>① 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要</p> <p>② 障害者福祉制度の発展過程</p> <p>③ 障害者総合支援法</p> <p>④ 障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際</p> <p>⑤ 障害者総合支援法における専門職の役割と実際</p> <p>⑥ 障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際</p> <p>⑦ 相談支援事業所の役割と実際</p> <p>⑧ 身体障害者福祉法</p> <p>⑨ 知的障害者福祉法</p> <p>⑩ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</p> <p>⑪ 発達障害者支援法</p> <p>⑫ 障害者基本法</p> <p>⑬ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律</p> <p>⑭ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <p>⑮ 障害者の雇用の促進等に関する法律</p>
精神疾患とその治療	<p>① 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。</p> <p>② 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。</p> <p>③ 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。</p> <p>④ 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。</p>	<p>① 精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）</p> <p>② 精神疾患の治療</p> <p>③ 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟</p> <p>④ 精神科治療における人権擁護</p> <p>⑤ 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割</p> <p>⑥ 精神医療と福祉及び関連機関と</p>
精神保健の課題と支援	<p>① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</p> <p>② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>③ 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</p> <p>④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p>	<p>① 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要</p> <p>② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ</p> <p>③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ</p> <p>④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ</p> <p>⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ</p> <p>⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割</p> <p>⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題</p> <p>⑧ 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携</p> <p>⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及</p>

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む。）と意義について理解する。 ② 社会福祉士の役割と意義について理解する。 ③ 相談援助の概念と範囲について理解する。 ④ 相談援助の理念について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉士の役割と意義 ② 社会福祉士の役割と意義 ③ 相談援助の概念と範囲 ④ 相談援助の理念
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方 ② 相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 ② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用する方法について理解する。 ④ 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。 ⑤ 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。 ⑥ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 ⑦ 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。 ⑧ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健医療福祉の歴史と動向 ② 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識 ③ 精神科リハビリテーションの概念と構成 ④ 精神科リハビリテーションのプロセス ⑤ 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割 ⑥ 精神障害者の支援モデル ⑦ 相談援助の過程及び対象者との援助関係 ⑧ 相談援助活動のための面接技術 ⑨ 相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。） ⑩ 家族調整・支援の実際と事例分析 ⑪ スーパービジョンとコンサルテーション ⑫ 地域移行の対象及び支援体制 ⑬ 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。） ⑭ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
精神保健福祉に関する制度とサービス	<p>① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。</p> <p>② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。</p> <p>③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。</p> <p>④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。</p> <p>⑤ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。</p>	<p>① 精神保健福祉法の意義と内容</p> <p>② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス</p> <p>③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要</p> <p>④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働</p> <p>⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係</p> <p>⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携</p> <p>⑦ 医療観察法の概要</p> <p>⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割</p> <p>⑨ 社会資源の調整・開発に係わる</p>
精神障害者の生活支援システム	<p>① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。</p> <p>② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。</p> <p>③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。</p> <p>④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。</p>	<p>① 精神障害者の概念</p> <p>② 精神障害者の生活の実際</p> <p>③ 精神障害者の生活と人権</p> <p>④ 精神障害者の居住支援</p> <p>⑤ 精神障害者の就労支援</p> <p>⑥ 精神障害者の生活支援システム</p> <p>⑦ 市町村における相談援助</p> <p>⑧ その他の行政機関における相談援助</p>
精神保健福祉援助演習（基礎）	<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。</p>	<p>以下の内容については、精神保健福祉援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>ア 自己覚知</p> <p>イ 基本的なコミュニケーション技術の習得</p> <p>ウ 基本的な面接技術の習得</p> <p>エ グループダイナミクス活用技術の習得</p> <p>オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得</p> <p>カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得</p> <p>キ 記録の技術の習得</p> <p>ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ・ 地域アセスメント ・ 地域福祉の計画 ・ ネットワーキング

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
精神保健福祉援助演習（専門）	<p>精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p>	<p>① 以下の内容については、精神保健福祉援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>ア 次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、実現に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的排除 ・ 退院支援、地域移行、地域生活継続 ・ ピアサポート ・ 地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等） ・ 教育、就労（雇用） ・ 貧困、低所得、ホームレス ・ 精神科リハビリテーション・その他の危機状態にある精神保健福祉イ アに掲げる事例を題材として、次に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行うこと。 ・ インテーク（受理面接） ・ 契約 ・ アセスメント（課題分析） ・ プランニング（支援の計画） ・ 支援の実施 ・ モニタリング（経過観察） ・ 効果測定と支援の評価 ・ 終結とアフターケア <p>ウ イの実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アウトリーチ ・ ケアマネジメント ・ チームアプローチ ・ ネットワーキング ・ 社会資源の活用・調整・開発 <p>② 精神保健福祉援助実習後に行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、精神保健福祉援助実習における学生の個別的な体験

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
精神保健福祉援助実習指導	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</p> <p>② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>	<p>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導</p> <p>ア 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>イ 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解</p> <p>ウ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>エ 現場体験学習及び見学実習</p> <p>オ 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解</p> <p>カ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解</p> <p>キ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む。）</p> <p>ク 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>ケ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</p> <p>コ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）</p> <p>サ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作</p>

科目名	教育内容	
	ねらい（目標）	教育に含むべき事項（内容）
精神保健福祉援助実習	<p>① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</p> <p>③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。</p>	<p>① 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>② 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>③ 学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価</p> <p>オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への</p>

健康運動実践指導者養成講習会開催要領

* 教育内容ごとの具体的な教育目標

公益財団法人 健康・体力づくり事業団
健康運動実践指導者養成講習会開催要領（平成31年度）

科目	単位数		内容
	講義	実習	
健康づくり施策概要	2		<ul style="list-style-type: none"> ●健康の概念、わが国の現状と健康づくり施策 ●生活習慣病とその予防、メディカルチェック
運動生理学	3		<ul style="list-style-type: none"> ●運動とエネルギー出力系 ●運動と肺・神経系 ●発育・発達の概論、老化の過程と機能変化
機能解剖とバイオメカニズム	2		<ul style="list-style-type: none"> ●骨格・筋、心臓、血管、呼吸器の構造と機能 ●バイオメカニクスの『基礎と応用
栄養摂取と運動	2		<ul style="list-style-type: none"> ●栄養学の基礎 ●食生活と運動、体重調節
体力の測定と評価	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ●体力測定の理論 ●形態及び体脂肪の測定 ●体力測定の実際と評価、データ処理
健康づくりと運動プログラム	3		<ul style="list-style-type: none"> ●トレーニングの原則、健康増進のための運動効果、運動指針の具体例 ●運動プログラムの基本的考え方、目標設定 ●運動のプログラム
運動指導の心理学的基礎	1		<ul style="list-style-type: none"> ●運動における行動変容
健康づくり運動の実際		13	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォームアップとクールダウン ●ストレッチング ●ウォーキングとジョギング(2単位) ●エアロビックダンス(3単位) ●水泳・水中運動(3単位) ●レジスタンスエクササイズ(3単位)
運動障害と予防・救急処置	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ●内科的障害 ●救急蘇生法 ●整形外科的障害 ●外科的救急処置とテーピング